

勞働分遣所ノ制度及所屬

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六八二
勞働分遣所ノ制度ハ俘虜收容所ノ制度ト同一タルベシ特ニ其ノ衛生的條件、食糧、災害又ハ病氣ノ場合ノ手當、通信並ニ小包ノ受領ニ關シテ然リトス
一切ノ勞働分遣所ハ俘虜收容所ニ屬スベシ該收容所ノ所長ハ勞働分遣所内ニ於ケル本條約ノ規定ノ履行ニ付責ニ任ズベシ

第五章 勞 銀

第三十四條

收容所ノ管理、整理及保存ニ關スル勞働ニ對シテハ俘虜ハ勞銀ヲ受ケザルベシ
他ノ勞働ニ使役セラルル俘虜ハ交戰者間ニ協定セラルベキ勞銀ヲ受ケル權利アルベシ
該協定ハ又收容所管理部ノ留保スルコトヲ得ベキ割合、俘虜ニ屬スベキ金額及拘束中該金額ノ交付セラルベキ方法ヲ規定スベシ

勞銀決定ノ原則

右協定ノ締結セラルル迄ハ俘虜ノ勞働ノ報酬ハ左ノ原則ニ從ヒ定メラルベシ

預金ノ處分

(イ) 國家ノ爲ニ爲サレタル勞働ハ當該國軍ニ屬スル軍人ガ同一勞働ニ従事スル場合ニ於ケル現行定率ニ從ヒ又ハ定率ナキ場合ハ爲サレタル勞働ニ比例スル率ニ從ヒ支拂ハルベシ

外部トノ連絡ニ關スル措置ノ公表

(ロ) 他ノ公共團體又ハ個人ノ爲ニ爲サレタル勞働ニ對シテハ軍事官憲ト協議ノ上條件ヲ定ムベシ
俘虜ノ貸方ニ殘ル金額ハ拘束ノ終了ニ際シ俘虜ニ交付セラルベシ死亡ノ場合ニ於テハ外交手續ニ依リ死者ノ相續人ニ移送セラルベシ

第四款 俘虜ト外部トノ連絡

第三十五條

戰爭開始後直ニ交戰者ハ本款ノ規定ノ實施ニ關シ定メラレタル措置ヲ公表スベシ

信書及郵便葉書ニ依ル通信

第三十六條

各交戰者ハ各種類ノ俘虜ガ一月内ニ發送スルコトヲ許サルベキ信書及郵便葉書ノ數ヲ定期ニ定メ之ヲ他ノ交戰者ニ通告スベシ該信書及葉書ハ郵便ニ依リ最短路ニ從ヒ送付セラルベシ懲罰的理由ヲ以テ此等郵便物ヲ延滞セシメ又ハ抑留スルコトヲ得ザルベシ
各俘虜ハ收容所到着後週クモ一週間以内ニ及病氣ノ場合ニ同様ニ其ノ家族ニ宛テ捕獲及健康状態ヲ報知スル爲郵便葉書ヲ發送スルコトヲ許サルベシ該郵便葉書ハ成ルベク速ニ送付セラルベク且何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハズ遲滞セラルルコトナカルベシ
通則トシテ俘虜ノ通信ハ其ノ母國語ヲ以テ書カルベシ交戰者ハ他國語ニ依ル通信ヲ許スコトヲ得ベシ

第三十七條

俘虜ハ其ノ食用又ハ被服ニ供スル爲ノ食料品及其ノ他ノ物品ヲ含ム小包郵便物ヲ個人的ニ受領スルコトヲ許サルベシ小包ハ受取證ト引換ニ名宛人ニ交付セラルベシ

第三十八條

直接又ハ第七十七條ニ規定スル情報局ヲ通ジテ俘虜ニ宛テラレ又ハ其ノ發送タル信書、金錢又ハ有價物ノ送付及小包郵便物ハ差出國、名宛國及通過國ニ於テ一切ノ郵便料金を免除セラルベシ
同様ニ俘虜ニ宛テタル贈與品及救恤品ハ輸入税其ノ他ノ諸税及國有鐵道ノ運賃ヲ免除セラルベシ
俘虜ハ承認セラレタル急用ノ場合ニハ通常ノ料金を支拂ヒテ電信ヲ發送スルコトヲ許サルベシ

第三十九條

俘虜ハ個人的ニ書籍ノ送付ヲ受ケルコトヲ許サルベク該書籍ハ檢閲セラルルコトヲ得ベシ
保護國及公認救恤團體ノ代表者ハ俘虜收容所ノ圖書室ニ著作物及書籍集ヲ送付スルコトヲ得ベシ

圖書室用ノ著作物ノ接受

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六八四

檢閲ノ困難ヲ理由トシテ該送付物ヲ圖書室ニ交付スルヲ遲延セシムルコトヲ得ザルベシ

第四十條

通信ノ檢閲ハ成ルベク速ニ爲サルベシ尙小包郵便物ノ監督ハ小包ノ包含スルコトアルベキ食料品ノ保存ヲ確保スルニ適スル條件ノ下ニ且出來得レバ名宛人又ハ名宛人ニ依リ正當ニ認メラレタル信任者ノ而前ニ於テ爲サルベシ
軍事上又ハ政治上ノ理由ニ依リ交戦者ノ發令スル通信ノ禁止ハ一時的ノ性質ノミヲ有シ得ベク且出來得ル限り短期間タルベシ

第四十一條

交戦者ハ俘虜ニ宛テラレ又ハ其ノ署名シタル證書、文書又ハ記録特ニ委任狀及遺言狀ノ送達ニ一切ノ便宜ヲ與フベシ
交戦者ハ必要アル場合ニハ俘虜ノ爲セル署名ノ公證ヲ確保スルニ必要ナル措置ヲ執ルベシ

第五款 俘虜ト官憲トノ關係

第一章 拘束制度ニ關スル俘虜ノ苦情申出

第四十二條

俘虜ハ之ヲ監督スル軍事官憲ニ對シ其ノ服スル拘束ノ制度ニ關シ申請ヲ爲スノ權利ヲ有スベシ
俘虜ハ又保護國ノ代表者ニ對シ拘束ノ制度ニ關シ有スルコトアルベキ苦情ノ諸點ヲ指示スル爲ニ陳述ヲ爲ス權利ヲ有スベシ
右ノ申請及苦情ノ陳述ハ迅速ニ傳達セラルベシ
該申請及苦情ノ陳述ガ根據ナシト認定セラルル場合ニ於テモ之ガ爲何等處罰セラルルコトナカルベシ

拘束制度ニ關スル苦情

公證事務
文書ノ送達

通信ノ檢閲及小包郵便物ノ監督
通信ノ禁止ハ一時的タルベシ

信任者ノ指定

第二章 俘虜ノ代表者

第四十三條

俘虜ハ其ノ所在スル一切ノ地方ニ於テ軍事官憲及保護國ニ對シ自己ヲ代表スル任務ヲ有スル信任者ヲ指定スルコトヲ許サルベシ
右ノ指定ハ軍事官憲ノ承認ヲ受タベシ
信任者ハ合同送付品ノ接受及分配ニ當ルベシ又俘虜ガ其ノ間ニ相互扶助ノ制度ヲ組織スルコトヲ決定スル場合ニハ該組織ハ該信任者ノ權限内ニ置カルベシ尙信任者ハ俘虜ニ對シ俘虜ト第七十八條ニ規定スル救恤協會トノ關係ヲ容易ナカラシムル爲仲介ノ勞ヲ提供スルコトヲ得ベシ
將校及之ニ準ズル者ノ收容所ニ於テハ最高級先任將校タル俘虜ハ收容所官憲ト俘虜タル將校及之ニ準ズル者トノ間ノ仲介者トシテ認メラルベシ之ガ爲該將校ハ收容所官憲トノ交渉ニ際シ通譯トシテ用フル爲一人ノ俘虜將校ヲ指定スル權限アルベシ

第四十四條

信任者ニシテ勞働者トシテ使役セラルル場合ニハ俘虜ノ代表者トシテノ其ノ活動ハ義務勞働時間内ニ計算セラルベシ
信任者ト軍事官憲及保護國トノ通信ノ爲該信任者ハ一切ノ便宜ヲ與ハラルベシ該通信ノ數ハ制限セラレザルベシ
俘虜ノ代表者ハ其ノ後繼者ヲシテ進行中ノ事務ニ通ゼシムル爲必要ナル時間ヲ與ヘラルルコトナクシテ移轉セシメラルルコトヲ得ザルベシ

第三章 俘虜ニ對スル處罰

信任者ノ待遇

一 總 則

第四十五條

俘虜ハ捕獲國軍ノ現行法律、規則及命令ニ服從スベシ
總テ不從順ノ行爲アルトキハ俘虜ニ對シ該法律、規則及命令ノ規定スル手段ヲ施スコトヲ得ベシ
尤モ本章ノ諸規定ヲ留保ス

第四十六條

俘虜ハ捕獲國ノ軍事官憲及裁判所ニ依リ同一事實ニ付該國軍ノ軍人ニ對スルト異ナル罰ヲ課セラルル
コトナカルベシ
同一階級ニ付テハ懲罰ヲ受クル俘虜タル將校、下士又ハ兵卒ハ捕獲國軍ニ於テ同一罰ニ關シ定メラレ
タルモノヨリ不利ナル待遇ヲ受タルコトナカルベシ
一切ノ體刑、日光ニ依リ照明セラレザル場所ニ於ケル一切ノ監禁及一般ニ一切ノ殘酷ナル罰ヲ禁止
ス

第四十七條

規律違反ヲ構成スル事實特ニ逃走ノ企ハ至急確認セラルベシ官等アルト否ト問ハズ一切ノ俘虜ニ對
シ豫防的拘留ハ最少限度ニ止メラルベシ
俘虜ニ對スル裁判手續ハ事情ノ許ス限リ速ニ爲サルベシ豫防的留置ハ出來得ル限リ制限セラルベシ
一切ノ場合ニ於テ豫防的留置期間ハ該國軍人ニ對シ認メラルル限リ懲罰又ハ刑罰ノ期間ヨリ控除セラ
ルベシ

法規命令
服從ノ義
務

罰ニ關ス
ル内國軍
人待遇
懲罰ニ關
スル内國
軍人待遇
體刑、暗
室及殘酷
ナル罰ノ
禁止
連座罰ノ
禁止
規律違反
ニ對スル
措置
豫防的留
置期間ノ
算入

處罰後ノ
待遇

官等制奪
ノ禁止
懲罰ニ付
セラレタ
ル將校ノ
特權保持

逃走ニ對
スル懲罰

逃走ノ再
企ハ刑ノ
加重情狀
トナルコ
トナシ
逃走補助
ハ懲罰セ
ラル

第四十八條

俘虜ハ其ノ課セラレタル刑罰又ハ懲罰ヲ終ヘタル後他ノ俘虜ト異ナル待遇ヲ受タルコトナカルベシ
尤モ逃走ノ企ニ依リ罰セラレタル俘虜ハ特別ノ監視ノ下ニ置カルルコトヲ得ベシ但シ該監視ハ本條約
ニ依リ俘虜ニ與ヘテ保障ヲ何等除去スルコトヲ得ザルベシ

第四十九條

捕獲國ハ俘虜ノ官等ヲ剝奪スルコトヲ得ズ
懲罰ニ付セラレタル俘虜ハ其ノ階級ニ附帶スル特權ヲ奪ハルルコトナカルベシ特ニ自由ノ剝奪ヲ伴フ
罰ヲ受クル將校及之ニ準ズル者ハ下士又ハ兵卒ニシテ罰セラレタル者ト同一場所ニ置カルルコトナカ
ルベシ

第五十條

逃走シタル俘虜ニシテ其ノ軍ニ違スル前又ハ之ヲ捕ヘタル軍ノ占領シタル地域ヲ離ルルニ先チ再ビ捕
ヘラレタル者ハ懲罰ノミニ付セラルベシ
俘虜ニシテ其ノ軍ニ違シ又ハ之ヲ捕ヘタル軍ノ占領シタル地域ヲ離レタル後再ビ俘虜ト爲リタル者ハ
前ノ逃走ニ對シテハ何等ノ罰ヲ受タルコトナカルベシ

第五十一條

逃走ノ企ハ再犯ノ場合ト雖モ俘虜ガ該企中人又ハ財物ニ對シテ犯セル重罪又ハ輕罪ニ付裁判所ニ訴ヘ
ラレタル場合ニ於テ刑ノ加重情狀トシテ考慮セラレザルベシ
逃走ノ企又ハ其ノ成就後ニ於テ逃走ニ協同セル逃走者ノ同僚ハ其ノ理由ニ依リ懲罰ノミニ付セラルベ
シ

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六八八

處罰ノ量

第五十二條

交戦者ハ俘虜ノ犯セル犯行ガ懲罰ニ付セラルベキヤ刑罰ニ付セラルベキヤノ問題ノ量定ニ關シ當該官憲ニ於テ最寛大ナル態度ニ出ヅル様注意スベシ
特ニ逃走又ハ逃走ノ企ニ關聯スル事實ノ量定ニ關シ然ルベシ
俘虜ハ同一事實又ハ同一訴追事項ニ關シ一度ノミ罰セラルルコトヲ得ベシ

第五十三條

懲罰ニ付セラレタル俘虜ニシテ送還ニ關シ規定セラレタル條件ニ適合スル者ハ該罰ヲ終ヘザルコトノ理由ヲ以テ留置セラルルコトナカルベシ
送還スベキ俘虜ニシテ刑事上ノ訴追中ノ者ハ裁判手續ノ終了迄又場合ニ依リ刑期ノ滿了迄送還ヨリ除外セラルルコトヲ得ベシ判決ノ結果既ニ留置中ノ者ハ其ノ終了迄留置セラルルコトヲ得ベシ
交戦者ハ前項ノ理由ニ依リ送還ヲ許サレザル俘虜ノ名簿ヲ相互ニ通告スベシ

二 懲 罰

第五十四條

拘留ハ俘虜ニ課セラルベキ最重キ懲罰トス
同一罰ノ期間ハ三十日ヲ超過スルコトヲ得ズ
右ノ三十日ノ最大限ハ俘虜ガ數箇ノ事實ニ付懲罰ヲ受クベキ場合ニ於テ右事實ガ相關聯スルト否トヲ問ハズ超過セラルルコトナカルベシ
拘留中又ハ其ノ期間滿了後俘虜ガ新ナル懲罰ヲ受ケタル場合ニ於テ拘留期間ノ何レカガ十日又ハ十日ヲ超ユルトキハ兩拘留ノ間ニ少クモ三日ノ期間ヲ置クベシ

最重キ懲罰

懲罰ニ付セラレタル者ノ送還

罰ノ加重

第五十五條

第十一條末項ノ目的トスル規定ノ留保ノ下ニ懲罰ニ付セラレタル俘虜ニ對シ捕獲國軍内ニ行ハルル食糧制限ヲ罰ノ加重トシテ適用スルコトヲ得ベシ
尤モ右ノ制限ハ罰セラレタル俘虜ノ健康狀態ガ之ヲ許ス場合ニ非ザレバ之ヲ命ズルコトヲ得ザルベシ

第五十六條

如何ナル場合ニ於テモ俘虜ハ懲罰ヲ受タル爲懲治所(刑務所、懲治監、徒刑場等)ニ移サルルコトヲ得ザルベシ
懲罰ヲ受タル場所ハ衛生上ノ要求ニ適合スルモノタルベシ
罰セラレタル俘虜ハ自ラ清潔ヲ保持スルコトヲ得シメラルベシ
右俘虜ハ毎日運動ヲ爲シ又ハ少クモ二時間屋外ニ留マルコトヲ得ベシ

第五十七條

懲罰ニ付セラレタル俘虜ハ讀ミ且書クコト及手紙ヲ發受スルコトヲ許サルベシ
之ニ反シ小包及送金ハ滿期迄名宛人ニ交付セザルコトヲ得ベシ配付セラレザル小包ニシテ購取シ易キ食料品ヲ含ムトキハ該品ハ醫務室又ハ收容所炊事場ニ付與セラルベシ

第五十八條

懲罰ニ付セラレタル俘虜ハ其ノ要求ニ基キ日日ノ診察ヲ受クルコトヲ許可セラルベシ該俘虜ハ醫師ノ必要ト認ムル手當ヲ受ケ且必要ニ應ジ收容所醫務室又ハ病院ニ引取ラルベシ

第五十九條

裁判所及上級軍事官憲ノ權限ヲ留保シ懲罰ハ收容所又ハ分遣所ノ所長トシテ懲罰權ヲ有スル將校又ハ

懲罰ヲ受クル場所

讀書及手紙ノ發受

患者ノ診察及手當

懲罰ノ量

裁判手續開始

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六九〇
該將校ヲ代理スル責任アル將校ノミニ依リ言渡サルベシ

三 訴 追

第六十條

俘虜ニ對スル裁判手續ノ開始ニ際シ捕獲國ハ成ルベク速ニ且常ニ辯論ノ開始期日前ニ保護國ノ代表者ニ之ヲ通告スベシ

右ノ通告ハ左ノ事項ヲ含ムベシ

(イ) 俘虜ノ戶籍及階級

(ロ) 滞在又ハ留置ノ場所

(ハ) 適用法規ヲ記載スル訴追事項ノ明細書

右ノ通告ニ於テ事件ノ審理ニ當ルベキ裁判所、辯論開始期日及辯論ノ行ハルベキ場所ノ指示ヲ與フルコト能ハザル場合ニ於テハ後日成ルベク速ニ且何レノ場合ニ於テモ辯論開始ノ前少クモ三週間前ニ該指示ヲ保護國ノ代表者ニ與フベシ

第六十一條

俘虜ハ辯護ノ機會ヲ與ヘラズシテ處罰セララルコトナカルベシ

第六十二條

俘虜ハ其ノ選擇スル有資格ノ辯護人ヲ帶同シ且必要ニ應ジ適當ナル通譯ヲ用フル權利ヲ有スベシ俘虜ハ捕獲國ニ依リ辯論ノ開始前適當ナル時機ニ其ノ權利ニ付通告ヲ受クベシ
俘虜ガ選擇セザル場合ニ於テハ保護國ハ該俘虜ニ辯護人ヲ附スルコトヲ得ベシ捕獲國ハ保護國ノ請求

辯 護

辯護人ノ帶同

ニ基キ辯護ヲ爲ス資格アル者ノ名簿ヲ保護國ニ送付スベシ
保護國ノ代表者ハ訴訟辯論ニ立會フ權利ヲ有スベシ
右ノ原則ニ對スル唯一ノ例外ハ國家ノ治安ノ爲訴訟辯論ノ秘密ヲ要スル場合ナリトス此ノ場合ニハ捕獲國ハ保護國ニ之ヲ豫告スベシ

第六十三條

俘虜ニ對スル判決ハ捕獲國軍ニ屬スル者ニ關スルト同一ノ裁判所ニ於テ且同一ノ手續ニ依リテノミ言渡サルルコトヲ得ベシ

第六十四條

一切ノ俘虜ハ自己ニ下サレタル一切ノ判決ニ對シ捕獲國軍ニ屬スル者ト同様ノ方法ニ依リ上訴スル權利ヲ有スベシ

第六十五條

俘虜ニ對シ言渡サレタル判決ハ直ニ保護國ニ通知セララルベシ

第六十六條

俘虜ニ對シ死刑ノ言渡サルルトキハ犯行ノ性質及情狀ヲ詳細ニ記述スル通知ハ俘虜ノ服役シタル軍ノ所屬國ニ移送セラルル爲成ルベク速ニ保護國ノ代表者ニ送付セララルベシ

該判決ハ右通知ヨリ少クモ三月ノ期間滿了前ニ執行セラレザルベシ

第六十七條

俘虜ハ判決ニ依ルト否ト問ハズ本條約第四十二條ノ規定ノ利益ヲ剝奪セララルコトヲ得ザルベシ

第四編 拘束ノ終了

拘束ニ關スル申請及苦情陳述ノ權利

判 決

上 訴 權

判決ノ通知

死刑言渡及言渡後ノ通知

拘束ニ關スル申請及苦情陳述ノ權利

重病者及
重傷者ノ
送還

第一款 直接送還及中立國ニ於ケル收容

第六十八條

交戦者ハ重病者及重傷者タル俘虜ガ移送セラレ得ル状態ニ至リタル後階級及數ニ關係ナク之ヲ其ノ本國ニ送還スル義務アルベシ
從テ交戦者ハ協定ヲ以テ成ルベク速ニ直接送還ノ原因ト爲ルベキ負傷又ハ病氣ノ場合及必要ニ應ジテ中立國ニ於テ收容セシムベキ場合ヲ定ムベシ該協定ノ締結ニ至ル迄ハ交戦者ハ本條約ニ參考トシテ附屬セラレタル標準協定ニ依ルコトヲ得ベシ

第六十九條

戰爭開始後直ニ交戦者ハ混成醫員會ヲ構成スル爲協定スベシ同會ハ三名ノ委員ヨリ成リ中二名ハ中立國ニ屬シ一名ハ捕獲國ノ指名スル者タルベシ中立國醫師ノ中一名ヲ以テ委員長トス同會ハ俘虜ニシテ病者又ハ傷者タル者ヲ診察シ且之ニ對シ有用ナル一切ノ決定ヲ爲スベシ
同會ノ決定ハ過半數ヲ以テ爲サルベク且成ルベク速ニ執行セラルベシ

第七十條

收容所ノ醫官ニ依リ指定セラレタル者ノ外次ニ掲グル俘虜ハ直接送還又ハ中立國ニ於ケル收容ノ爲ニ第六十九條ニ規定スル混成醫員會ノ診察ヲ受クベシ

(イ) 收容所ノ醫官ニ對シ直接ニ右要求ヲ爲ス俘虜

(ロ) 第四十三條ニ規定スル信任者ノ申出ニ依ル俘虜但シ該信任者ハ自己ノ發意ニ依リ又ハ俘虜ノ要求ニ基キ行動スルモノトス

(ハ) 俘虜ニシテ其ノ服役シタル軍ノ所屬國又ハ該國ニ依リ公認セラレタル救恤協會ニ依リ提議セラレ

混成醫員會

右醫員會
ノ診察ヲ
受クベキ
俘虜

勞働災害
ノ罹災者

第七十一條

俘虜ニシテ勞働災害ノ罹災者ト爲リタル者ハ送還又ハ必要ニ應ジ中立國ニ於ケル收容ニ關シ同一ノ規定ノ利益ヲ享有セシメラルベシ但シ故意ノ傷者ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條

戰爭ノ繼續中及人道上一ノ理由ノ爲交戦者ハ健全ナル俘虜ニシテ長期ノ拘束ヲ受ケタル者ノ直接送還又ハ中立國ニ於ケル收容ノ爲協定ヲ締結シ得ベシ

第七十三條

俘虜ノ送還又ハ中立國ヘノ移送ノ費用ハ捕獲國ノ國境外ニ於テハ右俘虜ガ服役シタル軍ノ所屬國ニ依リ負擔セラルベシ

第七十四條

送還セラレタル者ハ現役ノ軍務ニ服セシメラルルヲ得ザルベシ

第二款 戰爭終了ノ際ニ於ケル解放及送還

第七十五條

交戦者ガ休戰條約ヲ締結セントスルトキハ右交戦者ハ原則トシテ俘虜ノ送還ニ關スル規定ヲ設クベシ此ノ點ニ關スル規定ガ右條約ニ挿入セラレ得ザリシ場合ト雖モ交戦者ハ成ルベク速ニ之ガ爲連絡ヲトルベシ一切ノ場合ニ於テ俘虜ノ送還ハ平和克復後成ルベク速ニ行ハルベシ
尤モ俘虜ニシテ普通法上ノ重罪又ハ輕罪ノ爲訴追中ノ者ハ右手續ノ終了迄及場合ニ依リ刑期ノ滿了迄留置セラルルヲ得ベシ普通法上ノ重罪又ハ輕罪ノ爲刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テモ同様ナルベシ

送還規定
ノ設置

送還セラ
レタル者
ノ兵役

送還、移
送ノ費用

長期拘束
者ノ送還
又ハ收容

タルモノ

遺言及死亡證明書

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六九五
離散セル俘虜ヲ搜索シ且其ノ送還ヲ確保スル目的ヲ以テ交戦者ハ合意ノ上委員會ヲ設置スルヲ得ベシ

第五編 俘虜ノ死亡

第七十六條

俘虜ノ遺言ハ内國軍人ト同一ノ條件ヲ以テ受領セラレ且作成セラルベシ
同様ニ死亡ノ證明ニ關スル書類ニ關シテモ同一ノ規則ニ從フベシ
交戦者ハ拘束中死亡シタル俘虜ガ鄭重ニ埋葬セラルル様及墳墓ガ有用ナル一切ノ表示ヲ有シ、尊敬セラレ且相應ニ維持セラルル様注意スベシ

第六編 俘虜ニ關スル救恤及情報局

第七十七條

戰爭開始後直ニ各交戦國及交戦者ヲ收容シタル中立國ハ其ノ領域内ニ在ル俘虜ニ關スル官立情報局ヲ設置スベシ

各交戦國ハ其ノ軍ニ依リ爲サレタル俘虜ノ一切ノ捕獲ヲ成ルベク速ニ其ノ情報局ニ通知シ其ノ有スル認識ニ關スル一切ノ情報ニシテ迅速ニ關係家族ニ了知セシムルヲ得ベキモノヲ右情報局ニ供給シ且家族ガ俘虜ニ通信ヲ爲シ得ベキ公ノ宛名ヲ右情報局ニ通知スベシ

情報局ハ一方保護國ノ仲介ニ依リ及他方第七十九條ニ規定セラルル中央部ノ仲介ニ依リ前記一切ノ情報ヲ關係國ニ速ニ傳達スベシ

情報局ハ俘虜ニ關スル一切ノ問合ニ答フルノ任務ヲ有シ俘虜ノ留置、移動、宣誓解放、送還、逃走、入院、死亡ニ關スル一切ノ通報竝ニ其ノ他各俘虜ニ關シ銘銘票ヲ作成補修スル爲ニ他ノ必要ナル情報ヲ各主務官憲ヨリ受クベシ

俘虜救恤協會

情報局ハ該票ニ出來得ル範圍内ニ於テ且第五條ノ規定ヲ留保シテ登錄番號、氏名、出生日附及出生地、當人ノ階級及所屬部隊、父ノ名及母ノ氏、災害ノ場合ニ通知スベキ者ノ宛名、負傷、捕獲、留置、負傷、死亡ノ日附及場所竝ニ他ノ一切ノ重要ナル情報ヲ記載スベシ
各俘虜ノ認識ヲ容易ナラシムベキ一切ノ新規ノ情報ヲ含メル週刊名簿ハ關係諸國ニ交付セラルベシ
俘虜ノ銘銘票ハ平和克復後其ノ服役シタル國ニ交付セラルベシ
尙情報局ハ送還セラレ、宣誓解放セラレ、逃走シ又ハ死亡シタル俘虜ニ依リ遺留セラレタル一切ノ自用品、有價物、信書、給料帳、認識票等ヲ收集シ且之ヲ關係國ニ交付スルノ義務ヲ有スベシ

第七十八條

慈善行爲ノ媒介者タル目的ヲ以テ自國ノ法律ニ從ヒ正式ニ組織セラレタル俘虜救恤協會ハ其ノ博愛的事業ヲ有效ニ遂行スル爲交戦者ヨリ自己及其ノ正當ノ委任アル代表者ノ爲ニ軍事上ノ必要ニ依リテ定メラレタル範圍内ニ於テ一切ノ便宜ヲ受クベシ右協會ノ代表者ハ各自軍事官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ケ且該官憲ノ定メタル秩序及取締ニ關スル一切ノ規律ニ服スベキ旨書面ヲ以テ約シタル上收容所竝ニ送還俘虜ノ途中休止所ニ於テ救恤品ヲ分與スルコトヲ許サルベシ

第七十九條

俘虜情報中央部ハ中立國ニ設立セラルベシ赤十字國際委員會ハ必要ナリト認ムルトキハ該部ノ組織ヲ關係國ニ提議スベシ

情報中央部

該部ハ俘虜ニ關スル一切ノ情報ニシテ公ノ又ハ私ノ方法ニ依リ其ノ獲得シ得ベキモノヲ蒐集スルノ任務ヲ有スベシ該部ハ右情報ヲ俘虜ノ本國又ハ俘虜ガ服役シタル國ニ成ルベク速ニ交付スベシ
此等ノ規定ハ赤十字國際委員會ノ博愛的活動ヲ制限スルモノト解釋セラレザルベシ

料金、諸
税ノ免除

情報局ハ郵便物ニ關スル料金ノ免除及第三十八條ニ規定セララルル一切ノ免除ヲ享有スベシ

第八十條

第七編 或種非軍人ニ對スル條約ノ適用

第八十一條

通信員、新聞ノ探訪者、酒保商人、用違人ノ如キ直接ニ軍ノ一部ヲ爲サザル從軍者ニシテ敵ノ捕内ニ
陥リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認メタル者ハ其ノ隨伴シタル軍ノ軍事官憲ノ證明書ヲ携帶ス
ル場合ニ限り俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ有スベシ

第八編 條約ノ執行

第一款 總 則

第八十二條

本條約ノ規定ハ一切ノ場合締約國ニ依リ尊重セララルベシ
戰時ニ於テ交戰者ノ一ガ本條約ノ當事者タラザル場合ト雖モ本條約ノ規定ハ之ニ參加セル交戰者ノ間
ニ拘束力ヲ有スベシ

第八十三條

締約國ハ俘虜ニ關スル一切ノ問題ニシテ特ニ規律スルヲ適當ナリト認ムルモノニ關シ特別條約ヲ締結
スルノ權利ヲ留保ス

俘虜ハ送還ノ完了迄引續キ右協定ノ利益ヲ享有スベシ但シ前記協定若ハ將來ニ於ケル協定ニ含マルル
反對ノ明白ナル規定又ハ同様ニ何レカノ交戰者ニ依リ其ノ留置スル俘虜ニ關シ執ララルル更ニ有利ナル
措置アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

條約ノ尊
重

俘虜特別
條約

條約本文
ノ揭示用
ノ國語

本條約ノ規定ノ相互ノ適用ヲ確保シ且前記特別條約ノ締結ヲ容易ナラシムル爲交戰者ハ戰爭開始後直
ニ俘虜管理ノ任務ヲ有スル各自ノ官憲ノ代表者ノ會合ヲ許可スルコトヲ得ベシ

第八十四條

本條約及前條ニ規定セラレタル特別條約ノ本文ハ一切ノ俘虜ニ依リ參照セラレ得ベキ場所ニ於テ能フ
限り俘虜ノ母國語ニテ揭示セララルベシ

第八十五條

締約國ハ本條約ノ公ノ譯文並ニ本條約ノ適用ヲ確保スル爲採用セシメララルコトアルベキ法律及規則
ヲ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ相互ニ通知スベシ

第二款 監督ノ組織

第八十六條

締約國ハ本條約ノ正確ナル適用ガ交戰者ノ利益ノ保護ヲ委託セラレタル保護國ノ協力ヲ可能ナルニ依
リ保障セララルモノナルコトヲ認ム此ノ點ニ關シ保護國ハ外交官以外ニ自國人民又ハ他ノ中立國人民
ヨリ代表ヲ任命スルコトヲ得ベシ右代表ハ其ノ任務ヲ執行セントスル側ノ交戰者ノ承認ヲ受クベシ
保護國ノ代表者又ハ其ノ代表ニシテ承認ヲ受ケタル者ハ俘虜ノ留置セラレタル一切ノ場所ニ例外ナク
到ルコトヲ許可セララルベシ右代表者又ハ代表ハ俘虜ニ依リ占メラレタル一切ノ場所ニ到リ且一般ニ立
會人ナク、自ラ又ハ通譯ノ仲介ニ依リ俘虜ト會談スルコトヲ得ベシ
交戰者ハ保護國ノ代表者又ハ代表ニシテ承認ヲ受ケタル者ノ職務ヲ容易ナラシムベシ軍事官憲ハ右代
表者又ハ代表ノ訪問ヲ通知セララルベシ

條約ノ譯
文及法規
ノ通知

條約適用
ノ保障

交戦者間ノ紛争處理

前記諸規定ハ赤十字國際委員會ノ博愛的活動ヲ妨グズ

「ヘーグ」條約ノ補

署名

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 六九八

交戦者ハ俘虜ノ國籍ヲ有スル者ガ右觀察旅行ニ參加ヲ許サルルコトヲ承認スル爲協定シ得ベシ

第八十七條

本條約ノ規定ノ適用ニ付交戦者間ニ意見ノ不一致アル場合ニハ保護國ハ右紛争ノ處理ノ爲能ク限り周旋スベシ

之ガ爲各保護國ハ關係交戦者ニ對シ必要ニ應ジテ適當ニ選擇セラレタル中立地域ニ於ケル右關係交戦者ノ代表者ノ會合ヲ特ニ提議シ得ベシ交戦者ハ右趣旨ヲ以テ自己ニ對シ爲サルル提議ヲ遂行スルニ努ムベシ保護國ハ場合ニ依リ中立國ニ屬スル者又ハ赤十字國際委員會ニ依リ派遣セラレタル者ニシテ右會合ニ參加ヲ招請セラレベキモノニ對シ關係國ノ承認ヲ求ムルコトヲ得ベシ

第八十八條

前記諸規定ハ赤十字國際委員會ガ關係交戦者ノ承認ヲ得テ俘虜ノ保護ノ爲爲シ得ベキ博愛的活動ヲ妨グルモノニ非ズ

第三款 最終規定

第八十九條

陸戰ノ法規慣例ニ關スル「ヘーグ」條約(千八百九十九年七月二十九日ノモノタルト千九百七年十月十八日ノモノタルトヲ問ハズ)ニ依リ拘束セラレ且本條約ニ參加スル諸國間ノ關係ニ於テ本條約ハ右「ヘーグ」條約附屬規則第二章ヲ補足スベシ

第九十條

本日ノ日附ヲ有スベキ本條約ハ千九百二十九年七月一日「ジュネーヴ」ニ開會シタル會議ニ代表者ヲ派遣シタル一切ノ國ノ名ニ於テ千九百三十年二月一日迄ニ署名セラレ得ベシ

批准 寄託

實施

加入

加入ノ效力發生

戰爭狀態ニ在ル諸國ニ對スル效力發生

第九十一條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セララルベシ
批准書ハ「ベルヌ」ニ於テ寄託セララルベシ
各批准書ノ寄託ニ付調書一通作成セラレ其ノ認證原本ハ瑞西聯邦政府ニ依リ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ本條約ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セラレタルモノノ政府ニ交付セララルベシ

第九十二條

本條約ハ少クトモ二箇ノ批准書ガ寄託セラレタル後六月ニシテ實施セララルベシ
爾後本條約ハ各締約國ニ付其ノ批准書ノ寄託後六月ニシテ實施セララルベシ

第九十三條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ本條約ガ署名セラレザリシモノノ名ニ於テ爲サルル加入ノ爲開カルベシ

第九十四條

加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ對シ通告セララルベク加入書ガ同國政府ニ到達シタル日ノ後六月ニシテ效力ヲ生ズベシ
瑞西聯邦政府ハ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ條約ガ署名セラレ又ハ加入ガ通告セラレタルモノノ政府ニ加入ヲ通知スベシ

第九十五條

戰爭狀態ハ開始前又ハ開始後交戦國ニ依リ寄託セラレタル批准及通告セラレタル加入ニ對シ直ニ效力ヲ生ゼシムベシ戰爭狀態ニ在ル諸國ヨリ受領セラレタル批准又ハ加入ノ通知ハ最迅速ナル方法ニ

戰爭中ノ
廢棄國ニ
對シテ効
力ヲ生ズ
認證本
ノ寄託
批准加
入ノ廢
業ノ通
告文

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 七〇〇
依リ瑞西聯邦政府ニ依リ爲サルベシ

第九十六條

各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有スベシ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シタル後一
年ヲ經過スルニ非ザレバ効力ヲ生ズルコトナカルベシ瑞西聯邦政府ハ右通告ヲ一切ノ締約國ノ政府ニ
通知スベシ

廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノミ其ノ効力ヲ生ズベシ
尙右廢棄ハ廢棄國ガ參加セル戰爭中其ノ効力ヲ生ゼザルベシ此ノ場合ニ於テハ本條約ハ一年ノ期間滿
了後平和克復迄引續キ其ノ効力ヲ生ズベシ

第九十七條

本條約ノ認證本一通ハ瑞西聯邦政府ニ依リ國際聯盟ノ記錄ニ寄託セラルベシ同様ニ瑞西聯盟政府ニ
通告セラルベキ批准、加入、廢棄ハ瑞西聯邦政府ニ依リ國際聯盟ニ通知セラルベシ

右證據トシテ前記全權委員ハ本條約ニ署名セリ

千九百二十九年七月二十七日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作ル右一通ハ瑞西聯邦政府ノ記錄ニ寄託
保管セラルベク其ノ認證本ハ會議ニ招請セラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セラルベシ

(全權委員名省略) (署名國左ノ如シ)

- 獨逸國、亞米利加合衆國、奧地利國、白耳義國、「ボリヴィア」國、「ブラジル」國、「グレイト」ブ
リテン」及北部「アイルランド」並ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非ザル英帝國ノ一切ノ部分、「カナ
ダ」、「オーストラリア」、「ニユー・ジーンランド」、「南阿弗利加」、「アイルランド」自由國、印度、「ブ
ルガリア」國、「チリ」國、中國、「コロンビア」國、「キューバ」國、丁抹國、「ドミニカ」共和國、「エ
ジプト」國、西班牙國(政府ノ承認ヲ條件トス)、「エストニア」國、「フィンランド」國、佛蘭西國、
希臘國、「ハンガリー」國、伊太利國
- 日本國
- 吉田伊三郎
- 下村 定
- 三浦 省三
- 「ラトヴィア」國、「ルクセンブルグ」國、「メキシコ」國、「ニカラグア」國、諾威國、和蘭國、「ヘル
シア」國、「ポーランド」國、「ポルトガル」國、「ルーマニア」國、「セルブ、クロアイト、スロヴェ
ニア」王國、暹羅國、瑞典國、瑞西國、「チエツコスロヴァキヤ」國、「トルコ」國、「ウルグアイ」
國、「ヴェネズエラ」國

俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約
ノ附屬書

健康上ノ理由ノ爲メ俘虜ノ直接送還及中立國ニ於ケル入院ニ關スル標準協定

一 直接送還及中立國ニ於ケル入院ニ關スル原則

甲 直接送還ニ關スル原則

左記ノ者ハ直接送還セララル

(一) 醫學的豫想ニ依リ一年以内ニ快復スルモノト推定セラレザル病者及傷者ニシテ其ノ病狀ガ治療ヲ要シ且其ノ精神的若ハ身體的能力ガ著シク減退セリト認メラルル者

(二) 快復不能ナル病者及傷者ニシテ其ノ精神的若ハ身體的能力ガ著シク減退セリト認メラルル者

(三) 治癒セル病者及傷者ニシテ其ノ精神的若ハ身體的能力ガ著シク減退セリト認メラルル者

乙 中立國ニ於ケル入院ニ關スル原則

左記ノ者ハ入院セシメララル

(一) 一年以内ニ治癒スルモノト推定セララル病者及傷者ニシテ中立國ノ提供スル手段ノ利益ヲ享クルトキハ其ノ本來ノ拘束狀態ヲ持續セシムルヨリモ其ノ治癒ノ一層確實且迅速ナリト認メラルル者

(二) 俘虜ニシテ其ノ精神的又ハ身體的健康ガ醫學的豫想ニ依レバ拘束狀態ノ持續ニ依リ著シク侵害セララルモ中立國ニ於テ入院セシムルトキハ恐ラク右ノ危險ヲ除去スルコトヲ得ト認メラルル者

丙 中立國ニ於ケル入院者ノ送還ニ關スル原則

中立國ニ於テ入院セル俘虜ニシテ左ノ部類ニ屬スル者ハ送還セララル

(一) 健康狀態ガ現在健康上ノ理由ノ爲メ送還セララルベキ者ノ部類ニ屬スルカ又ハ屬セントスト認メララルル者

(二) 治癒者ニシテ其ノ精神的若ハ身體的能力ガ著シク減退セリト認メララルル者

二 直接送還又ハ中立國ニ於ケル入院ニ關スル特別

甲 送還ニ關スル特別

左記ノ者ハ送還セララル

(一) 器官傷害ノ結果次ノ器質的又ハ機能的病變ニ冒サレタル一切ノ俘虜即チ肢ノ亡失、癱瘓、關節若ハ他ノ病變ニシテ少クトモ一足若ハ一手ノ不全又ハ一足若ハ一手ノ亡失ニ相當スルモノ

(二) 傷害セラレタル一切ノ俘虜ニシテ醫學上一年以内ニ治癒ノ見込ナキ不具者ト爲ラシムルガ如キ狀態ニ在ル者

(三) 一切ノ病者ニシテ醫學上一年以内ニ治癒ノ見込ナキ不具者ト爲ラシムルガ如キ狀態ニ在ル者

特ニ右ノ部類ニ屬スル者左ノ如シ

(イ) 醫學的豫想ニ依レバ中立國ニ於ケル療養ニ依リ治癒又ハ少クトモ著シク輕快ヲ得ベカラザ

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約

七〇四

ル臟器ノ進行性結核症

(四) 結核性ニ非ザル不治ノ呼吸器病(特ニ甚シク増進セル肺氣腫ニシテ氣管支炎ヲ伴フモノ又ハ伴ハザルモノ、氣管支擴張、重キ喘息、瓦斯中毒等)

(五) 重キ慢性循環器病(例ヘバ代償機能障礙ノ傾向アル瓣膜症、心筋、心囊及脈管ノ比較的重症ナル諸病特ニ手術不可能ノ大ナル動脈ノ動脈瘤等)

(二) 重キ慢性消化器病

(三) 重キ慢性泌尿生殖器病特ニ例ヘバ完全ナル徵候ヲ呈シ特ニ心臟及血管ノ既ニ慢性セル一切ノ慢性腎臟炎、慢性腎盂炎及膀胱炎等

(六) 重キ慢性中樞及末梢ノ神經系病特ニ重キ神經衰弱及「ヒステリー」、確實ナル一切ノ癲癇、重キ「ハセードー」氏病等

(七) 兩眼盲又ハ一眼盲ニシテ矯正鏡ヲ用フルモ他眼ノ視力ニ達セザルモノ、矯正ニ依リ少クトモ一眼ヲ二分ノ一ノ視力ニ恢復セシムルコト能ハザル視力ノ減弱、本部類ニ屬スル他ノ眼疾患(綠内障、虹彩炎、脈絡膜炎等)

(八) 兩耳ノ全聾並ニ片耳ノ全聾ニシテ聾度不完全ナル他耳ガ一メートルノ距離ニ於テ普通ノ話聲ヲ聴取スルコト能ハザルモノ

(九) 確實ナル一切ノ精神病者

(十) 金屬又ハ他ノ原因ニ依ル重キ慢性中毒(鉛中毒、水銀中毒、「モルヒネ」中毒、「コカイン」中毒、「アルコール」中毒、瓦斯中毒等)

(十一) 慢性運動器病(臨床的ニ其ノ病變ヲ證明シ得ル畸形性關節炎、痛風、「リウマチス」)但シ

右疾患ガ重症ナルコトヲ條件トス

(一) 一切ノ惡性腫瘍ニシテ被手術者ノ生命ニ危險ナキ比較的輕度ノ手術ニテハ效力ナキモノ

(二) 器質變化(肝臟、脾臟ノ著シキ慢性肥大、惡液質等)ヲ認メ得ル一切ノ「マラリア」患者

(三) 重キ慢性皮膚病ニシテ病性ガ醫學上中立國ニ於ケル入院ニ適セザルモノ

(四) 重キ「ヰイタミン」缺乏症(脚氣、「ペラグラ」、慢性壞血病)

乙 入院ニ關スル特別

左ノ病氣ニ罹リタル俘虜ハ之ヲ入院セシムベシ

(一) 現在ノ醫學的智識ニ從ヘバ中立國ニ於テ應用シ得ル手段(高山療法、「サナトリウム」ニ於ケル治療)ニ依リ治療又ハ少クトモ著シキ輕快ヲ得ル一切ノ臟器結核

(二) 呼吸器、循環器、消化器、泌尿生殖器、神經系、感覺器、運動器及皮膚ノ一切ノ疾患ニシテ治療ヲ要スルモノ但シ右疾患ガ直接送還ヲ命ズル部類ニ屬セザルカ又ハ全快ノ傾向ヲ有スル本來ノ急性疾患ニ非ザルコトノ條件ヲ具フルヲ要ス本項ニ掲グル疾患ハ患者ガ拘束状態ニテ治療セラルルヨリモ中立國ニ於テ實行シ得ル療法ノ適用ニ依リ該患者ノ爲一層良好ナル治療ノ機會ヲ與フルモノトス

俘虜ノ神經衰弱及他ノ類似ノ病症ノ如キ神經障礙ニシテ其ノ有力ナル又ハ決定的ノ原因ガ戰爭若ハ拘束ノ結果ニ存スルモノハ特ニ考慮セラルベシ

正當ニ認メラレタル前項ノ患者ハ其ノ重症ノ程度又ハ體質上直接送還患者ノ取扱ヲ要セザル限りハ入院セシムルヲ要ス

精神衰弱症ニ罹レル俘虜ニシテ中立國ニ於テ入院後三月ニシテ治療セザルカ又ハ該期間後全快

- ノ途ニ在ラザルコト明カナル者ハ送還セラルベシ
- (三) 拘束状態ニ在ルヨリモ中立國ニ於テ一層良好ナル治療ノ機會ヲ得ベキ一切ノ創傷外傷患者及右創傷發症但シ直接送還ヲ要セザルカ又ハ症狀ノ輕微ナラザル條件ヲ具フルヲ要ス
- (四) 正當ニ病症ヲ認メラレ且臨床的ニ認メ得ル器質變化(肝臟、脾臟ノ慢性肥大、惡液質等)ヲ呈セザル一切ノ「マラリア」患者ニシテ中立國ニ滞在スルトキハ特ニ全快ノ見込アル者
- (五) 中立國ニ於テ特ニ治療ノ見込アル一切ノ中毒患者(特ニ瓦斯、金屬、「アルカロイド」ニ依ル)左ニ該當スル者ハ入院ノ限ニ在ラズ
 - (一) 正當ニ確認セラレタル一切ノ精神病者
 - (二) 不治ノ器質的又ハ機能的精神病(此ノ兩疾病ハ直接送還セラルベキ部類ニ屬ス)
 - (三) 重キ慢性「アルコール」中毒症
 - (四) 感染力ヲ有スル時期ニ於ケル一切ノ傳染性疾患(急性傳染病、第一期梅毒及第二期梅毒、「ト」ラホーム、「癩病」等)

三 通則

前記所定ノ條件ハ一般ニ成ルベク廣義ニ之ヲ解釋シ且適用スルヲ要ス
 右廣義ノ解釋ハ戰爭又ハ拘束ノ結果ニ基因シタル神經病又ハ精神病(俘虜ノ精神衰弱症)及各種程度ノ結核症ニ特ニ適用セラルベシ
 收容所ノ醫師及混成醫員會ハ二示ス諸例中ニ掲ゲラレザルカ又ハ該例ニ適合セザル多數ノ病症ニ遭遇スルコトアルハ勿論ノコトトス前記諸例ハ基準ヲ示スニ過ギズ外科的症例ニ付テノ類似ノ表ハ病症ノ性質自體ニ依リ自ラ明確ナルモノ(切斷)ヲ除クノ外個個ノ基準表ヲ作ルコト困難ナルガ故ニ

之ヲ設ケズ右個個ノ症例ヲ揭示スルモ實際上不便ナキ能ハザルハ經驗ノ示ス所ナリ
 前記諸例ニ正確ニ適合セザル一切ノ場合ハ前記原則ノ精神ニ基キ之ヲ解決スベシ

俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約ヘノ批准
 書寄託國、加入國及適用地域左ノ如シ(昭和十六年十月末調)

- | | | |
|---------------|-------------|---------------|
| 「ドイツ」國 | 南「アフリカ」聯邦 | 「ノールウエー」國 |
| 「アメリカ」合衆國 | 「オーストラリア」聯邦 | 「オランダ」國 |
| 「オーストリー」國 | 「カナダ」 | 「ポーランド」國 |
| 「ベルギー」國 | 「イ」ン「ド」 | 「ポルトガル」國 |
| 「ブラジル」國 | 「ニュー、ジーランド」 | 「ルーマニア」國 |
| 「チリ」國 | 「ピルマ」(適用) | 「スロヴァキア」國(加入) |
| 中華 民 國 | 「アデ」ン(適用) | 「スウェーデン」國 |
| 「デンマーク」國 | 「ハンガリー」國 | 「スイス」國 |
| 「エジプト」國 | 「イタリク」國(加入) | 「タイ」國 |
| 「スペイン」國 | 「イタリア」國 | 「トルコ」國 |
| 「エストニア」國 | 「ラトヴィア」國 | 「ユーゴスラヴィア」國 |
| 「フランス」國 | 「リニア」國(加入) | |
| 「グレート、プリンテン」國 | 「メキシコ」國 | |

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 七〇八

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百
六年七月六日ノ「ジュネーヴ」條約改訂ノ爲及俘虜ノ待遇
ニ關スル條約作成ノ爲召集セラレタル外交會議ノ最終議
定書(千九百二十九年七月二十七日)

會 議

委 員

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル千九百六年七月六日ノ「ジュネーヴ」條約改訂ノ爲及
俘虜法典編纂ノ爲瑞西聯邦政府ニ依リ召集セラレタル本會議ハ第十回及第十一回ノ赤十字國際會議ニ
依リ審議セラレ且承認セラレタル二條約案ヲ基礎トシ千九百二十九年七月一日ヨリ七月二十七日ニ互
リ「ジュネーヴ」ニ於テ討議セリ
左ニ列記スル諸國ハ本會議ニ參加シタリ同會議ノ爲左記ノ代表委員任命セラレタリ

(中略)

日本國

代表委員、瑞西國駐劄日本國特命全權公使吉田伊三郎
代表委員、陸軍中佐下村定
代表委員、在「パリ」日本國大使館附海軍武官、海軍中佐三浦省三

專門委員、海軍軍醫少佐神林美治
專門委員、陸軍三等軍醫正松田彰
書記官、在「ベルヌ」日本國公使館一等書記官天城篤治
書記官、在「ブリュセル」日本國大使館書記官、子爵本野盛一

(中略)

本會議及
委員會

本會議ハ瑞西國代表委員、全權公使「ポール、デイニシエール」ニ依リ司會セラレタリ
本會議ハ二ノ委員會ヲ組織シタリ
第一委員會ハ「ジュネーヴ」條約ノ改訂ヲ委任セラレ「ポール、デイニシエール」公使ニ依リ司會セラレ
第二委員會ハ俘虜法典ノ作成ヲ委任セラレ「ハラルド、スカヴエニウス」公使ニ依リ司會セラレタリ第
二委員會ハ二ノ小委員會ニ分タレ其ノ一ハ「アメリカ」合衆國代表委員「ヒュー、アール、ウイilson」
公使ニ依リ他ノ一ハ「グレート、ブリテン」國代表委員「サー、ホレース、ランボルド」ニ依リ司會セラ
レタリ

二條約

本會議ハ全權委員ノ署名ヲ求ムル爲本日ノ日附ヲ有スル左ノ二條約ヲ協定セリ
戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ狀態改善ニ關スル「ジュネーヴ」條約

俘虜ノ待遇ニ關スル條約

希望及意
見

右ノ外本會議ハ左ノ希望及意見ヲ表明セリ

一 本會議ハ敵ノ權内ニ陥リタル重傷者及重病者ノ爲其ノ入院治療ヲ終了スルニ至ル迄ノ新保障ガ規

定セラルルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ガ審議セラレンコトヲ希望ス

二 「オールド、ド、マルト」ト稱スル「サン、ジアン、ド、ジェルザレム」救護員ノ團體ノ要求ニ基キ本會議ハ「ジュネーヴ」條約ニ依リ定メラレタル戰地軍隊ニ派遣ノ救恤協會ノ地位ヲ定ムル規定ハ右「オールド」ノ國內團體ニモ適用セララルモノト認ム

英國ニ於ケル「サン、ジアン、ド、ジェルザレム」ノ大修道院、獨逸國ニ於ケル「サン、ジアン」(「ヨハニテル」)及「サン、ジュオルジュ」ノ團體並ニ諸國ノ右ニ類似スル救護員團體ニ關シテモ亦同ジ

三 本會議ハ「ジュネーヴ」條約ノ參加國ガ戰時ニ於ケル衛生航空機ノ使用ニ關シ必要ナル範圍ニ於テ十分ナル規定ヲ設ケル爲近キ將來ニ於テ會議ヲ開催センコトヲ希望ス

四 本會議ハ軍服ヲ着セザル一切ノ衛生人員ノ認識證明書ノ劃一的樣式ノ研究及設定ハ「ジュネーヴ」ニ本部ヲ有スル衛生材料規格統一國際委員會ニ回付セラレンコトヲ希望ス

五 本會議ハ人間ノ連帶事業ニ於ケル赤十字社及篤志救恤協會ノ任務ノ重要ナルコトヲ認メ同社及同協會ニ對シ其ノ平時ニ於ケル活動ノ爲特ニ其ノ設備、人員ノ交通及材料ノ輸送並ニ救恤作業ニ關シ一切 便益及免除ガ國內法ノ容認スル最大範圍ニ於テ許與セララルヲ甚望マシキコトト思考ス

六 本會議ハ其ノ二委員會ノ全會一致ノ決議ヲ採用シ交戰者ノ領域又ハ交戰者ニ依リ占領セラレタル地域ニ在ル敵國籍ヲ有スル普通人民ノ條件及之ガ保護ニ關スル國際條約締結ノ爲十分ナル研究ノ企圖セラレンコトヲ希望ス

右證據トシテ各代表委員ハ本最終議定書ニ署名セリ

米 文

千九百二十九年七月二十七日「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右一通ハ瑞西聯邦政府ノ記錄ニ寄託保存セラレベク其ノ認識證本ハ本會議ニ代表者ヲ出セル一切ノ國ニ交付セララルベシ (代表委員名省略) (署名國左ノ如シ)

- 獨逸國、「アメリカ」合衆國、奧地利國、白耳義國、「ボリヴィア」國、「ブラジル」國、「グレイト、ブリテン」及北極「アイルランド」並ニ國際聯盟ノ個個ノ聯盟國ニ非サル英帝國ノ一切ノ部分、「カナダ」、「オーストラリア」、「ニュー・ジールランド」、「南、アフリカ」、「アイルランド」自由國、印度、「ブルガリア」國、「チリ」國、中華民國、「コロンビア」國、「キューバ」國、「丁抹國」、「ドミニカ」共和國、「エジプト」國、西班牙國(政府ノ承認ヲ條件トス)、「エストニア」國、「フィンランド」國、佛蘭西國、希臘國、「ハンガリー」國、伊太利國
- 日本國

- 吉田伊三郎
- 下村 定
- 三浦 省三
- 「ラトヴィア」國、「ルクセンブルグ」國、「メキシコ」國、「ニカラガア」國、諾威國
- 和蘭國

本最終議定書ニ署名スルニ當リ和蘭國代表委員ハ次ノ留保ヲ爲ス即チ和蘭國法規ハ戰時又ハ動員ノトキニハ和蘭國ニ於ケル一切ノ篤志救恤團體ハ和蘭國赤十字協會ノ指揮ニ服セシメラルコトヲ規定ス
ヴェー、ダウデ、フアン、トローストヴァイク

(四三) 俘虜ノ待遇ニ關スル千九百二十九年七月二十七日ノ條約 七一二

ドクトル、デイール
イエー、ハルベルツ

「ベルシア」國、「ポーランド」國、「ポルトガル」國、「ルーマニア」國、「セルブ、クロアチア、スロ
ヴァニア」國、「通緬國、瑞典國、瑞西國、「チエツコスロヴァキア」國、「トルコ」國、「ウルグアイ
國、「ヴェネズエラ」國

[追補]

(四十四) 大東亞戰爭ニ於テ敵國ノ執ル措置ニ鑑ミ大正三年軍令海第八號海
戰法規ノ一部ト異ル規定ヲ適用スルノ件

(昭和十七年三月二十日官報)

大東亞戰爭ニ於テ敵國ノ執ルベキ措置ニ鑑ミ大正三年軍令海第八號海戰法規ノ一部ト異ル規定ヲ適用スルノ件發令
セラレタルガ其ノ總括シタルモノ左ノ通ナリ(海軍省)

第一條 左ノ各條ハ各大正三年軍令海第八號海戰法規ノ常該條ニ代リ又ハ新ニ追加スベキモノトス
第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ之ヲ敵船ト看做ス

- 一 敵國國旗ヲ掲揚スルモノ
 - 二 帝國(同盟國)又ハ中立國ノ國旗掲揚ノ權利ヲ立證シ得ザルモノ
 - 三 所有者ガ敵性ヲ有スルモノ
 - 四 其ノ監督又ハ使用ニ因ル利益ガ敵國又ハ敵性ヲ有スル者ニ歸屬スルモノ
 - 五 敵國政府ノ特許ヲ得テ航海ニ從事スルモノ
- 第四十六條 封鎖艦隊ハ第五十三條ノ場合ノ外船舶ノ中立港及中立沿岸ニ接到スルコトヲ遮斷スルヲ得ズ
- 第五十三條 船舶ニシテ該船舶又ハ其ノ載貨ノ最後ノ到達地ガ封鎖港ナルトキハ現ニ封鎖セラレザル港ニ向テ航
行スル場合ニ於テモ封鎖犯トシテ之ヲ拿捕スルコトヲ得
- 第五十五條 別段ノ規定ナキ限り左ノ各號ニ掲グル材料及物件ハ絶對的戰時禁制品タルベキモノトス

- 一 一切ノ武器、彈藥、爆發物、破壞具、化學戰用化學藥品又ハ其ノ器具類及此等ノ組成品、部分品、附屬品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類
- 二 陸上、海上又ハ空中ニ於ケル一切ノ輸送機關又ハ輸送手段及此等ノ組成品、部分品、附屬品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類
- 三 一切ノ燃料、加熱材料又ハ機械潤滑用材料及此等ノ組成品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類
- 四 第一號乃至第三號ニ掲グル物件ノ使用ニ必要又ハ便利ナル物件又ハ獸類
- 五 軍事行動遂行ニ必要又ハ便利ナル一切ノ陣營具、被服、通信器具、照明器具其ノ他ノ器具、機械類、地圖、繪畫、寫真、文書及其ノ部分品、附屬具
- 六 貨幣、地金銀、紙幣、有價證券及借用證書
- 七 第四號乃至第六號ニ掲グル物件ノ生産、製造、修理又ハ使用ニ必要又ハ便利ナル物件
- 第五十六條 別段ノ規定ナキ限り左ニ掲グル材料及物件ハ條件附戰時禁制品タルベキモノトス
 - 一切ノ糧食、飼料、糧秣又ハ被服並ニ此等ノ生産、製造ニ供セラルル材料及物件
- 第五十九條ノ二 貨物ニシテ指圖人渡ニ依リ又ハ荷受人不明ノ儘敵國ニ貨物ヲ供給スル常用經路タル中立港ニ陸揚セラルベキモノナルトキハ第五十八條ニ規定スル到達地ヲ有スルモノト推定ス
- 第六十一條 第五十六條ノ物件及材料ニシテ其ノ敵國軍隊又ハ行政廳ノ使用ニ仕向ケラレタルモノト認ムベキトキハ之ヲ戰時禁制品トス但シ行政廳ニ仕向ケラレタル場合ニ於テ此等ノ物件及材料ハ事實上該戰爭ノ爲ニ使用セラルベキモノニ非ザルコトヲ諸般ノ狀況ニ依リ立證セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六十二條ノ二 敵國政府ガ一般徵發ヲ行ヒ又ハ第五十六條ノ物件ニ付配給統制ヲ行フ場合ニ於テハ第五十六條ノ物件ニシテ其ノ敵國ノ領土又ハ占領地ニ仕向ケラレタルモノト認ムベキトキハ第六十一條ニ規定スル到達地

ヲ有スルモノト推定ス

第八十二條 敵國軍隊ニ編入セラレタル者、敵國軍隊ニ編入セラルル目的ヲ以テ旅行スル者若ハ兵役適齡者タル敵國人又ハ敵國ノ軍事ニ貢獻スベキ特殊技能ヲ有スル者ニシテ中立商船内ニ在ル者ハ該船舶ヲ拿捕スルヲ得ザル場合ト雖モ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得

第八十七條 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ作戰行動上必要アルトキハ其ノ附近ニ在ル無線通信裝置ヲ有スル船舶ニ對シテ左ニ掲グル事項ヲ禁止スルコトヲ得

- 一 艦隊、軍艦又ハ軍用船ノ位置及其ノ動作ニ關スル通信ヲ發送スルコト
 - 二 艦隊、軍艦又ハ軍用船ヨリ發スル通信ヲ登錄スルコト
 - 三 艦隊、軍艦又ハ軍用船ノ通信ヲ妨害スベキ一切ノ行爲ヲ爲スコト
- 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ必要ニ應ジ前項ノ船舶ニ對シテ暗號電信ノ發信ヲ禁止シ又ハ無線通信ノ用語ヲ制限スルコトヲ得

第八十八條 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ前條ノ禁止又ハ制限ヲ爲ス場合ニ於テハ麾下ノ士官ヲシテ其ノ禁止又ハ制限事項ヲ其ノ附近ニ在ル無線通信裝置ヲ有スル船舶ニ告知セシムベシ

第八十九條 前條ノ告知ヲ受ケ又ハ第八十七條ノ禁止制限ヲ知リタルコトヲ認メ得ベキニ拘ラズ禁止制限ヲ犯シタル船舶ハ之ヲ拿捕スベシ緊急ノ必要アル場合ニ於テハ隨機ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 前條ノ場合ニ於テ該船舶内ニ在ル通信ノ登錄簿ニシテ禁止制限事項ニ關スル記事ヲ記入シタルモノハ之ヲ押收スルコトヲ得該船舶ノ善意ニ付疑フベキ充分ノ理由アルトキハ其ノ無線通信機モ亦之ヲ押收スルコトヲ得

第九十一條ノ二 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ其ノ附近ニ無線通信裝置ヲ有スル船舶ノ在ルコトガ其ノ從事スル作戰

行動ノ成效ヲ害スルモノト認ムルトキハ該船舶ニ對シ離隔ヲ命ジ航行スベキ方向ヲ示命スルコトヲ得

第九十一條ノ三 前條ノ命令ニ從ハザル船舶ハ之ヲ拿捕スベシ緊急ノ必要アル場合ニ於テハ該機ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 第八十九條、第九十條又ハ第九十一條ノ三ノ場合ニ於テ該船舶ノ行爲ニシテ軍事的補助ニ該當スルモノト認ムベキトキハ第十四章ノ規定ニ依リ之ヲ處置スベシ

第九十二條ノ二 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ無線通信裝置ヲ有スル船舶ガ敵ノ即時使用ニ供セラルベキ重大ナル軍事情報ヲ發信スル場合ニ於テハ之ヲ阻止スル爲メ該機ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第九十二條ノ三 前條ノ船舶ハ第十四章ノ規定ニ依リ之ヲ處置スベシ

第九十三條 第八十九條、第九十一條ノ三又ハ第九十二條ノ三ノ船舶ハ沒收セラルベキモノトス該船舶ニ搭載スル無線通信機及禁止制限事項ニ關スル通信ノ登錄簿亦同ジ

第一百條 敵國軍艦又ハ敵國軍用航空機ノ護送ヲ受ケ航行スル船舶ハ之ヲ拿捕スベシ

前項ノ船舶ハ必要ニ應ジ之ヲ攻撃破壞スルコトヲ得

第一百條 敵國軍艦又ハ敵國軍用航空機ノ護送ヲ受ケ航行スル船舶及其ノ載貨ハ沒收セラルベキモノトス

第一百九條 拿捕シタル船舶内ニ在ル乘客ハ敵國軍隊ニ編入セラレタル者、敵國軍隊ニ編入セラルル目的ヲ以テ旅行スル者及兵役適齡者タル敵國人竝ニ敵國ノ軍事ニ貢獻スベキ特殊技能ヲ有スル者ヲ除クノ外成ルベク速ニ便宜ノ港ニ於テ上陸セシムベシ

前項ノ乘客中證人ト爲スノ必要アリト認ムル者ハ之ヲ抑留スルコトヲ得

第一百三十八條 隨檢又ハ搜索ハ現場附近ニ於テ之ヲ行フヲ例トシ且艦長ハ船舶ニ成ルベク迷惑ヲ與ヘザルコトニ注意スベシ

天候ノ不良其ノ他ノ事由ニ因リ現場附近ニ於テ隨檢若ハ搜索ヲ行フコトヲ得ズ又ハ之ヲ行フコトヲ適當ナラズト認メタルトキハ船舶ヲシテ艦長ノ命ニ從ヒ進航セシムベシ其ノ命ヲ聽カザルトキハ之ヲ拿捕スルコトヲ得

拿捕スベキ重大ナル嫌疑アリト認ムベキ船舶ニ對シテハ前項ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第一百四十條 艦長ハ特別ノ事由アル場合ヲ除キ隨檢又ハ搜索ヲ爲スベキ船舶ニ對シテ其ノ短艇、乘員又ハ書類等ヲ本艦ニ送致スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第一百六十條 艦長ハ拿捕シタル船舶ヲ回航セシムルガ爲捕獲士官及必要ナル部下人員ヲ選任シテ之ニ乘組マシメ連ニ該船舶及其ノ載貨ヲ帝國捕獲所所在港ニ送致スベシ

第一百七十一條 前條ノ場合ニ於テハ艦長ハ捕獲士官ヲシテ書式第十九ニ依リ船舶ヲ附近ノ帝國港又ハ同盟國港ニ送致セル情況ヲ詳記シタル調書ヲ作成セシメ調査委員ノ調査書ヲ之ニ添附シ該士官ヲシテ證人、船舶書類其ノ他海檢ノ爲必要ナル書類ト共ニ之ヲ帝國捕獲所ニ送致セシムベシ

第一百七十一條ノ二 艦長ハ特別ノ事由アルトキハ船舶ヲ送致セズ之ヲ適當ナル港ニ拘置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ捕獲士官ヲシテ拘置シタル情況及其ノ事由ヲ記載シタル調書ヲ作成セシメ船舶書類其ノ他海檢ノ爲必要ナル書類ト共ニ之ヲ帝國捕獲所ニ送致セシムベシ

第二條 隨檢士官又ハ捕獲士官ガ隨檢又ハ捕獲セラレタル船舶ニ於テ該船舶備付ノ書類若ハ該船舶ノ船長(之ニ代ル者ヲ含ム)ニ與フベキ書類ニ署名シ又ハ口頭ヲ以テ身分ヲ示ス場合ニ於テ艦名ヲ秘匿スル必要アルトキハ海戦法規ノ規定ニ拘テズ乘組艦名ヲ示サス單ニ「帝國軍艦乘組隨檢士官海軍大尉何某」等トスルコトヲ得

艦隊ノ指揮官又ハ艦長ノ身分ヲ示ス場合ニ於テモ特別ノ必要アルトキハ前項ニ準ジ艦隊名又ハ艦名ヲ示サザルコトヲ得

第三條 本令及大正三年軍令海第八號海戦法規ノ規定ハ特令ナキ限り海軍部隊ニ之ヲ適用ス

license of an enemy government.

Article 46

道
補
海
戰
The blockading forces must not bar access to neutral ports or coasts, except in the case provided for in Article 43.

Article 53

Where the ulterior destination of a vessel or of her cargo is a blockaded port, she may be captured for breach of blockade even if she is on her way to a non-blockaded port.

Article 55

The following materials and article are absolute contraband of war unless otherwise provided for:—

- (a) All kinds of arms, ammunition, explosives and destructive articles; chemicals or appliances suitable for use in chemical warfare; their ingredients, component parts and accessories; and machines used in their manufacture or repair.
- (b) All contrivances for, or means of, transport on land, in the water or air; their ingredients, component parts and accessories; and machines used in their manufacture or repair.
- (c) Fuel, heating materials or lubricants of all kinds; their ingredients; and machines used in their manufacture or repair.
- (d) Articles or animals necessary or convenient for the use of articles mentioned in (a), (b) or (c).
- (e) All kinds of equipment, clothing, means of communication or illumination, tools, implements, machi-

○右英譯(假)

Re. APPLICATION OF PROVISIONS WHICH ARE IN PART MODIFICATIONS OF THE RULES OF NAVAL WAR (NAVAL ORDINANCE NO. 8, 1914), IN THE WAR OF GREATER EAST ASIA.

In view of the measures being taken by the enemies, the Imperial Japanese Naval Forces are under orders to apply the following provisions, which are in part modifications of the Rules of Naval War (Naval Ordinance No. 8, 1914) in the War of Greater East Asia.

CLAUSE I

The following Articles shall replace the corresponding Articles of, or shall be inserted in, as the case be, the Rules of Naval War (Naval Ordinance No. 8, 1914):—

Article 18

The following vessels shall be deemed to be enemy vessels:—

1. Any vessel flying the flag of an enemy State.
2. Any vessel which fail to prove her right to fly the flag of the Japanese Empire, an Ally of the Japanese Empire, or a neutral State.
3. Any vessel whose owner is of enemy character.
4. Any vessel, the control or use of which results in benefit to an enemy State or to a person of enemy character.
5. Any vessel which is engaged in a voyage under the

If, where the Government of an enemy State carries on a system of general requisition or enforces the control of the distribution of the articles mentioned in Article 56, such articles are shown to be destined to territory belonging to or occupied by the enemy, their destination shall be presumed to be the destination mentioned in Article 61.

Article 82

Any individual found on board a neutral merchant vessel who is embodied in the armed forces of an enemy State, or is travelling with the object of being embodied in the armed forces of an enemy State, or is an enemy national of conscription age, or has expert knowledge or skill which would contribute to the military strength of an enemy State may be made a prisoner of war, even though there be no ground for the capture of the vessel.

Article 87

The commander of a squadron or warship may, whenever necessary in carrying out military operations, forbid vessels fitted with wireless installations present in the vicinity:

- 1) To transmit messages concerning the position and movement of the squadron, warship, or any other ship in the service of the army or navy;
- 2) To register messages transmitted by the squadron, warship, or any other vessel in the service of the army or navy;
- 3) To do any act that may interfere with the transmission of messages from the squadron, warship, or any

nes, maps, pictures, photographs and documents necessary or convenient for carrying on hostile operations; and their component parts and accessories.

- (f) Coin, bullion, paper money, negotiable instruments and evidences of debt.
- (g) Articles necessary or convenient for the production, manufacture, repair or use of articles mentioned in (d), (e) or (f).

Article 55

The following materials and articles are conditional contraband of war unless otherwise provided for:—

All kinds of food, foodstuffs, feed, forage or clothing; and materials and articles used in their production and manufacture.

Article 59 bis

Where any goods, whether consigned "to order" or with an unnamed assignee, are to be discharged at a neutral port which is on a route commonly used for supplying goods to an enemy State, their destination shall be presumed to be the destination mentioned in Article 58.

Article 61

Articles mentioned in Article 56 are liable to capture if they are shown to be destined for the use of the armed forces or of a government department of the enemy State, unless in the latter case the circumstances show that the goods cannot in fact be used for the purposes of the war in progress.

Article 62 bis

When the commander of a squadron of warship deems the presence in its vicinity of a vessel fitted with wireless installations to be prejudicial to the success of the military operation in which it is engaged, he may order her to leave the area and indicate the course she must take.

Article 91 *ter*

Any vessel not complying with the order mentioned in the preceding Article shall be captured. In case of urgent necessity the commander of a squadron or warship may take such measures as are suited to the circumstances.

Article 92

If in the cases mentioned in Article 89, 90 and 91*ter*, the action of the vessel is deemed to be unneutral service, she shall be dealt with according to the provisions of Chapter XIV.

Article 92 *bis*

In case a vessel equipped with wireless installations dispatches any important military message immediately available to the enemy, the commander of a squadron or warship may take such measures as may be necessary for its prevention.

Article 92 *ter*

The vessel mentioned in the preceding Article shall be dealt with according to the provisions of Chapter XIV.

Article 93

The vessels referred to in Art. 89, 91*ter*, and 92*ter* are liable

other ship in the service of the army or navy.

The commander of the squadron or warship may likewise forbid the aforesaid vessels to transmit any telegrams in code, and may restrict the languages to be used in transmitting messages.

Article 88

The commander of a squadron or warship, when enforcing the prohibitions or restriction mentioned in the preceding Article, shall order an officer under his command to notify the particulars of the prohibitions or restriction to vessels fitted with wireless installations present in the vicinity of the squadron or warship.

Article 89

If a vessel violates the prohibition or restriction mentioned in article 87, notwithstanding that she has received the notification mentioned in the preceding Article or if there is good reason to believe that she was aware of such prohibition or restriction, she is to be captured. In cases of urgent necessity, the commander of a squadron or warship may take such measures as are suited to the circumstances.

Article 91

In the case mentioned in the preceding Article, any register found in the vessel which contains entries relating to the prohibited or restricted matters, may be seized.

If there is sufficient reason to suspect the *bona fide* of the vessel, her wireless installations may likewise be seized.

Article 91 *bis*.

sidered unsuitable on account of heavy weather or for any other reason, the commander of the warship shall order the vessel to proceed elsewhere. If the vessel disobeys such an order, she may be captured.

追補海
戰
In respect of a vessel which is seriously suspected of being liable to capture, the measures provided for in the preceding paragraph may also be taken.

Article 140

The Commander must not, except in cases where there are special reasons for it, require a vessel which is to be visited or searched to send her boat, crew, or papers to his own vessel.

Article 160

The Captain, in order to take a prize to port, shall appoint a Prize Officer and such of his subordinates as may be necessary and order them to board her and to take her and her cargo without delay to a port where a Prize Court of the Japanese Empire is located.

Article 171

七二五
In the case mentioned in the preceding Article, the Captain shall order the Prize Officer to make out a report minutely stating the circumstances in which the prize was sent to a neighbouring port belonging to the Japanese Empire or her ally, and to send it, together with the report of the committee provided for in Art. 169, witnesses, ship's papers and any other papers necessary for the purpose of adjudication to the Prize Court.

to condemnation; and the same is true also of the wireless installations and the register of messages concerning prohibited or restricted matters found on board.

Article 101

Vessels under convoy of an enemy warship or enemy military aircraft are liable to capture.

The aforesaid vessels may be attacked and destroyed if necessary.

Article 102

Vessels under convoy of an enemy warship or enemy military aircraft and their cargo are liable to condemnation.

Article 119

The passengers on board a prize, except those who are embodied in the armed forces of an enemy State, those who are travelling with the object of being embodied in the armed forces of an enemy State, those who are enemy nationals of conscription, and those who have expert knowledge or skill that would contribute to the military strength of an enemy State, shall be landed at a convenient port as soon as possible.

Any of the passengers mentioned in the preceding paragraph who are considered necessary as witnesses may be detained.

Article 138

Visit or search shall as a rule be carried out near the place where the vessel was overtaken, and the commander of the warship shall be careful to cause her as little annoyance as possible.

When visit or search at such a place is impossible or con-

(四十四) 海戦法規ノ一部ト異レル規定適用ノ件

七二四

Article 171 bis.

Where special circumstances exist, the Captain may, instead of sending the prize to a port in which a Prize Court is located, sequester it in a suitable port. In such case, he shall order the Prize Officer to make out a report stating the circumstances of and reasons for the sequestration, and to send it, together with the ship's papers and any other papers necessary for the purpose of a judgment to the Prize Court.

CLAUSE II

The visiting Officer or the Prize Officer, when signing his name on any of the ship's papers or on any document to be given to the master of the vessel (or to any person acting for the master) or when orally communicating his status, on board the vessel visited or captured may, if it is necessary to conceal the name of the warship, simply write or say, (for instance) "Lieutenant A. B., Visiting Officer of an Imperial Japanese Warship", without giving the name of the warship, as required by the Rules of Naval War.

In cases of special necessity, the commander of a squadron or a warship, when indicating his status, need not give the name of his squadron or warship, in accordance with the preceding paragraph with the necessary modifications.

CLAUSE III

The provisions of the present Order and of the Rules of the Naval War (Naval Ordinance No. 8, 1914) shall apply *mutatis mutandis* to any naval force, unless there is any special Ordinance to the contrary.

(四十四)

海軍法規ノ一部ト異ル規定ヲ適用スルノ件

七二六

83

一覽表

- (第二) 戰爭法規一覽表
- (第二) 海戰法規一覽表
- (第三) 船舶、人員、載貨ニ對スル交戰權(海戰)ノ作用一覽表
- (第四) 空戰法規一覽表
- (第五) 陸戰法規一覽表
- (第六) 砲擊、爆擊ニ關スル規則一覽表。化學、燒夷、細菌戰一覽表
- (第七) 中立法規一覽表
- (第八) 關係條約批准(加入)國一覽表
- (第九) 各國船舶書類一覽表

(註) 文中括弧内ノ数字ハ、海戰法規條文ノ示スル水コトヲ示ス。自動船隻水雷ノ設置ニ關スル條約ヲ示ス。

Table with 10 columns: 使用雷水設敷, 分處線電海, 封鎖, 時禁制品, 助軍的的, 無線通, 郵便便, 捕拿・索搜・檢, 捕拿再・捕拿同共, 破船拿捕, 捕拿致送船捕拿. Each cell contains detailed legal provisions regarding naval warfare, including rules on mines, blockades, contraband, and the treatment of captured vessels.

空・戦法 規一覽表

〔註〕「空」トアルハ一九二二年空戦法規案ヲ示ス。

爲行對敵

(下以頁八六二第)

〔皇國機、獨逸機〕
航空機ニ對シ又ハ航空機ニ依リ使用セラルルコトハ差支ナシ。(空、一八)

〔虛偽ノ外部標識使用禁止〕
○虚偽ノ外部標識使用ハ適法ナル奇計ニ非ズ(空、一九)
○右ハ國籍又ハ資格ヲ示ス標識ニ關ス。

〔中立國私航機標識(空、三一)〕
占領地内ニ在ルモノヲ標識シ差支ナシ。

〔即時射撃シ得ル場合(空、三四)〕
一)帝國ノ管轄内ヲ航空スルモノ。
二)帝國ノ管轄直近地域ニシテ敵國ノ管轄外ヲ航空スルモノ。
三)帝國ノ軍事行動ノ直近地域ヲ航空スルモノ。

〔落下傘ニ依リ避難者(空、二〇)〕
避難下降者ハ下降中攻撃セズ(特殊目的ヲ以テ下降スル者ヲ含マズ)。

〔敵國內ヲ航空スルモノ(軍用機ノ場合)(空、三五)〕
警告ヲ與フルモノ最近ノ適當場所ニ着陸着水セザルモノハ射撃シ差支ナシ。

〔敵國航空機ノ没収〕
没収(私航機ハ赤檢ヲ經テ)。

〔宣傳流布(空、二一)〕
○禁止セラレズ。
○方法ハ制限ナシ(空中ニ煙文字ヲ描クモノノ如キモノモ包含ス)。
○非難セラルベキ行動ノ煽動ハ正當ノ宣傳ト認メラレズ。

〔間諜(空、二七―二九)〕
(第五表参照)。

用作ノ權戰交

(照參下以頁八七二第書本)

〔敵國內ヲ航空スル敵非軍用航空機(空、三三)〕
接近シタル場合最近ノ適當ノ場所ニ着陸着水セザルモノハ射撃シ差支ナシ。

〔敵國內ヲ航空スル敵非軍用航空機(空、三三)〕
〔敵國內ヲ航空スル敵非軍用航空機(空、三三)〕

〔破損シ得ル場合(空、五八、五七)〕
一)軍事の補助、無標識、虚偽標識ノ理由ニ依リ没収セララルベキモノナルコト。
二)檢定ノ爲迄致不可能ナル場合又ハ交戦國航空機ノ安全若ハ軍事上ノ作戦行動ノ成效ヲ害スル場合。
三)右ノ場合ノ外、軍事上最重大ナル必要アリテ解放シ又ハ檢定ノ爲迄致シ難キ場合。

〔破損手續(空、五九、五七)〕
一)搭乗者ヲ安全ノ地ニ移ス。
二)書類ノ保全。
三)事件ヲ捕獲檢査所ニ提起ス。破壊シ得ベカリシコトノ辨明。

〔没収〕
原則トシテ海戦法規ニ準ズ。
特別トシテ左ノ場合ニハ没収ス。(空、五八)
一)外部標識ヲ有セズ又ハ虚偽ノ標識ヲ有スルモノ。
二)戰時自國以外ニ於テ武装ヲ有スル私航機。
三)航路指定又ハ禁止區域ニ入り而モ理由ヲ辨明シ得ザルモノ。
〔戰費〕
海戦法規ニ準ズ。
(本書第二九二頁参照)

扱取ノ者乘搭機空航捕拿

(照參下以頁一八二第書本)

機空航國敵

〔軍用機〕
存廢

〔非軍用公航機〕
存廢

〔私航機〕
一)中立國人
○敵ノ役務ニ服スル者 存廢
○敵ノ役務ニ服セザル者 誓約解放

二)敵國人
存廢

機空航國立中

〔中立國人〕
○敵ノ役務ニ服セザル者 無條件解放
○敵ノ役務ニ服スル者 存廢

〔敵國人〕
○敵ノ役務ニ服スル者 存廢
○軍役ニ適スル者 存廢
○右以外ノ者 解放

破破機空航捕拿

〔中立國私航機標識(空、五〇)〕
一)示命(示命方法ハ適宜)
適當ノ場所ニ着陸、着水又ハ通航スベキコトヲ命ズ(空、五〇)。
二)命ニ從ハザルモノハ射撃シ差支ナシ。
〔對船機〕
一)中立國旗掲揚船
附近ニ帝國船又ハ根據地アルトキニ右ニ接近シ命ズ。
○命ニ從ハザルモノヲ直ニ爆撃スルコトハ差支ラズベキモノトス。
二)敵國々旗掲揚船
適當ノ場所ニ通航ヲ命ズ。
○抵抗ノ態度ヲ示シタルトキハ適宜強力行使差支ナカラシ。

〔軍用機〕
一)搭乗者ヲ安全ノ地ニ移ス。
二)書類ノ保全。

分處ノ貨載・收没ノ機空航捕拿

〔沒收〕
原則トシテ海戦法規ニ準ズ。
特別トシテ左ノ場合ニハ沒收ス。(空、五八)
一)外部標識ヲ有セズ又ハ虚偽ノ標識ヲ有スルモノ。
二)戰時自國以外ニ於テ武装ヲ有スル私航機。
三)航路指定又ハ禁止區域ニ入り而モ理由ヲ辨明シ得ザルモノ。
〔戰費〕
海戦法規ニ準ズ。
(本書第二九二頁参照)

捕拿索搜檢臨

(照參下以頁三八二第書本)

〔機機〕
○私航機ハ交戦國軍用航空機ニ依ル臨檢搜索等ニ服ス(空、四九)。
○對船機
軍用航空機ガ船中ヲ臨檢搜索スルノ件法規慣例ナシ。

〔臨檢搜索ノ方法(空、五〇)〕
一)示命(示命方法ハ適宜)
適當ノ場所ニ着陸、着水又ハ通航スベキコトヲ命ズ(空、五〇)。
二)命ニ從ハザルモノハ射撃シ差支ナシ。
〔對船機〕
一)中立國旗掲揚船
附近ニ帝國船又ハ根據地アルトキニ右ニ接近シ命ズ。
○命ニ從ハザルモノヲ直ニ爆撃スルコトハ差支ラズベキモノトス。
二)敵國々旗掲揚船
適當ノ場所ニ通航ヲ命ズ。
○抵抗ノ態度ヲ示シタルトキハ適宜強力行使差支ナカラシ。

〔臨檢搜索ノ目的物〕
一)軍用機
臨檢等ヲ爲スコトヲ得ズ。
二)非軍用公航機
○稅關用、警務用。
○私航機ト同様。
凡テ臨檢、搜索スルコトヲ得。

〔軍用機〕
一)搭乗者ヲ安全ノ地ニ移ス。
二)書類ノ保全。

〔軍用機〕
一)搭乗者ヲ安全ノ地ニ移ス。
二)書類ノ保全。

陸 戰 法 規 一 覽 表

〔註〕(陸)トアルハ、海牙陸戰條規ヲ示ス。

者戰交	俘 虜	害 敵 手 段	軍 使	降 伏 休 戰	領 占
<p>〔第一表参照〕</p>	<p>〔概説〕 一定資格ヲ有スル者ガ敵ニ捕ラレタル場合ニハ、俘虜トシテ取扱ハルベク、之ニ虐待ヲ加フベカラザルハ勿論、必要トスル拘束ヲ加フル以外ニ於テハ、捕ヘタル國ノ軍人ト同様ノ待遇ヲ與フベシトセラシム。 (本書第三二四頁以下参照)</p>	<p>〔概説〕 害敵手段ニハ一定制限アリ(陸、二二)。 (本書第三三五頁以下参照)</p>	<p>〔概説〕 ○交戦者ノ一方ノ命ヲ帯ビ、他ノ一方ト交渉スル爲、白旗ヲ掲ゲテ來ル者。 ○軍使及隨從者(喇叭手、鼓手、旗手、通譯)ハ不可侵トス(陸、三二)。 (本書第三三九頁参照)</p>	<p>〔概説〕 ○戰爭繼續中、交戦國間、兩軍隊指揮官間ニ、軍ノ行動ニ關シテ東スルコトアリ(降伏、休戰等)。 ○軍隊指揮官ノ權限内ニ於テ結テ約東テ戰時規約ト謂フ。 ○戰時規約ハ軍ノ行動ニ關スルモノタルベシ、從テ一般條約締結ノ手續ヲ必要トセズ。 (本書第三四〇頁以下参照)</p>	<p>〔概説〕 ○一地方ガ事實上敵國ノ權内ニ歸シタルトキ(陸、四二)。 ○區域ハ占領軍ノ權力ノ及ブ範圍(陸、四二)。 ○單純ナル侵入ハ、直ニ占領ト爲ルモノニ非ズ。 ○被占領國ノ主權ハ、一時停止ス。 (本書第三四一頁以下参照)</p>
<p>〔俘虜ト爲ルベキ人ノ例〕 (一)戰闘員、非戰闘員(陸、三)。 (二)從軍者(陸、二二)。 (三)主權者又ハ之ニ類スル者。 (四)軍要行政官、外交使節等。 (五)軍屬。 (六)地方防禦民(陸、二二)。 (七)軍ニ屬スル傷病者。 (八)本捕船、航空機ノ乘員(例外アリ)</p>	<p>〔禁止セラルベキ手段〕(陸、二二)。 (一)毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ用フルコト。 (二)背信行爲。 (三)降参者ヲ殺傷スルコト。 (四)助命セザルコトヲ宣言スルコト。 (五)不必要ノ苦痛ヲ與フル兵器、物質ヲ使用スルコト。 (六)軍旗、軍使旗等ノ標識、敵ノ制服、赤十字標識ヲ濫用スルコト。 (七)戰爭上已ムヲ得ザル事情ナクシテ、敵ノ財産ヲ押収破壊スルコト。 (八)敵國民ノ權利、財産等ヲ消滅停止スルコト。 (九)敵國民ヲ強制シテ其ノ本國ニ敵對セシムルコト。</p>	<p>〔軍使ヲ差向ケラレタル部隊長ノ處置〕(陸、三三)。 (一)必ズモ接受スルノ義務ナシ。 (二)濫用防止ノ爲一切ノ手段ヲ講ズルコトヲ得。 (三)濫用アリタルトキハ一時拘留。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔種類〕(陸、三七)。 (一)無條件降伏。 (二)條件ヲ定メテ降伏スルモノ。 (三)降伏ニ準ズ。 ○國際法規慣例一定セズ。通例左ノ通。 (一)普通書面ニ依ル。 (二)談判ハ軍使又ハ軍使船ヲ送り開始ス。 (三)艦隊部隊ニ白旗ヲ掲ゲ無條件降伏ノ意思ヲ表示スルコトアリ。 ○締結者ハ原則トシテ指揮官。</p>	<p>〔占領地秩序維持〕(陸、四三)。 (一)絕對的支障ナキ限リ現行法規尊重。 (二)秩序及生活回復努力。</p>
<p>〔俘虜ト爲シ得ザル人〕(ジエネヴァ條約)。 (一)傷病者救護事務従事者。 (二)軍隊附屬ノ救護者。 (三)衛生機關ノ守衛人員ニシテ、正式命令書ヲ有スル者。</p>	<p>〔攻圍及砲撃〕 (附表第六参照)</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔降伏ニ準ズ〕。 ○締結者。 (一)全般的休戰。 最高指揮官、主權者ノ全權委任ヲ有スル者。 (二)部分的休戰。 最高指揮官、獨立部隊指揮官。</p>	<p>〔占領地人民ノ待遇〕 (一)情報提供強制(陸、四四)。 條約規定ニ依レバ禁止セラルル但シ帝國ハ之ヲ留保ス。 (二)忠誠ノ誓強調禁止(陸、四五)。 (三)生命財産保護信託自由(陸、四六)。 私有財産ハ原則トシテ尊重。 (四)掠奪禁止(陸、四七)。 (五)租稅、賦課金等制限(陸、四八、四九)。 (六)連坐罰禁止(陸、五〇)。</p>
<p>〔俘虜ノ取扱〕 (一)政府ノ權内(部隊ニ非ズ)ニ屬スルモノトシ、人道ヲ以テ取扱フベキモノトス(陸、四)。 (二)詳細ハ陸戰條規第二章参照。 (三)帝國法令。 ○俘虜處罰ニ關スル法律。 ○俘虜情報局官制。 ○海軍俘虜取扱規程。</p>	<p>〔間諜〕 (一)交戦地帯内ニ於テ、對手交戦者ニ通報スル意思ヲ以テ隱密ニ、又ハ虚偽ノ口實ノ下ニ行動シテ、情報ヲ蒐集スル者(陸、二九)。(夜賊、二七)。 (二)間諜ニ非ザル者。 ○制服ヲ着用シテ情報ヲ收集スル者。 ○公然ノ通信傳達者。 (三)處罰。 ○間諜ハ法規違反ニ非ザルモ、重ク罰セラル。 ○現行中ニ限ル(陸、三一)。 ○裁判ヲ經ルヲ要ス(陸、三〇)。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔定ムベキ事項〕 ○一定シ居ラズ。凡ソ左ノ如シ。 (一)地域物件引渡。 (二)軍隊撤退。 (三)俘虜軍人ノ取扱。 (四)傷病者、衛生員ノ取扱。 (五)擧置敷設場所ノ指示。 (六)一定地點ノ即時占據。 (七)住民ニ對スル行政引渡。 (八)軍人ノ名譽ニ關スル例規參酌(陸、三五)。</p>	<p>〔取立金〕(陸、五一)。 (一)總指揮官ノ命令書。 (二)成ルベク現行租稅賦課規則ニ依ル。 (三)領收證交付。</p>
<p>〔俘虜ノ逃走〕 (一)逃走シテ自國軍ニ達スル前、又ハ自己ノ敵ノ占領地ヨリ脱出スル前ニ、再び捕ヘラレタルトキハ處罰セラル(陸、八)。 (二)逃走ヲ果シタル者ハ、後ニ再び俘虜ト爲ルモ、前ノ逃走ニ對シ處罰セララズ(陸、八)。 (三)帝國法令。 ○海軍刑法第二十二條第六號及第十章。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔效力〕 ○内容。 (一)一時ノ作戦動作停止。 (二)中立商船ヲ檢査搜索捕レ、敵國商船ヲ拿捕スルコト差支ナシ。 (三)特約ナケレバ兵力移動、需品補給等差支ナシ。 ○休戰開始時期(陸、三八)。 (一)特約ナキトキ。 (二)調印又ハ批准ノ時。 (三)所定時期。 ○休戰終了(陸、三六)。 (一)特約ナキトキ。 (二)何時ニテモ通告シテ動作開始。 ○動作開始ニ條件アルトキハ右ニ從フ。 (一)特約アルトキ。 期間經過ニ依リ當然休戰終了。</p>	<p>〔施設、課税〕(陸、五二)。 (一)占領軍自體ノ需用ノ爲。 (二)程度。 ○地方ノ資力相應。 ○本國ニ敵對シメザルコト。 (三)條件。 ○指揮官ノ許可。 ○即金又ハ領收證付與。</p>
<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔軍使ノ不可侵權喪失〕(陸、三四)。 (一)背信行爲ヲ行フ爲、特權ヲ濫用シタル證據明瞭ナルトキ。 (二)接受ヲ拒絶セラルルモ、之ガ爲特權ヲ喪フコトナシ。</p>	<p>〔遵守、違反〕 (一)嚴重履行(陸、三五)。 (二)重大違反アリタルトキハ、規約ヲ破棄ス。 (一)締約當事者ノ違反(陸、四〇)。 ○重大違反アレバ規約破棄(通告)。 ○緊急ノ場合ハ即時戰闘開始。 (二)個人發意ノ違反(陸、四一)。 ○違反者處罰。 ○損害補償。</p>	<p>〔財産處分〕 (一)原則(陸、二二)。(三)。(四)。 ○戰爭ノ必要已ムヲ得ザル場合ノ外敵ノ財産ヲ破壊、押收スルコトヲ得ズ。 (二)國有財産。 ○動産。 作戦動作ニ供シ得ベキモノ以外ハ押收セズ(陸、五三)。 ○不動産。 軍ニ使用収益シ、適當ニ監視ス(陸、五五)。 ○宗教學術等ノ用ニ供セラルルモノ。 軍用ニ供セラレザル限リ保護(陸、五六)。 (三)私有財産。 ○原則トシテ尊重(陸、四六)。 ○軍用材料(陸、五二)。 押收手知克復後返付賠償。</p>

砲撃爆撃ニ關スル規則一覽表

(海、陸、空)ハ各當該條約ヲ示ス

法名	海	空	陸	
砲撃爆撃ニ關スル規則	<p>砲撃(本書第一〇五頁以下参照)</p> <p>(戰時海軍力ヲ以テスル砲撃ニ關スル條約(一九〇七年))</p> <p>(一)防守シタル港、都市、村落、住宅、建物等(海、一)</p> <p>○港前ニ、自動機雷水雷ヲ敷設シタル場合ハ、防守シタルモノト看做シ差支ナシ(條約ニハ反對規定アリ)</p> <p>(二)非防守都市等ノ内ニ在ルモノ、左ノ物件ハ砲撃差支ナシ(海、二)</p> <p>(イ)軍艦、軍用運送船、軍用給油船、其ノ他軍ノ用務ニ服スル特務船艇。</p> <p>(ロ)軍艦、軍用工場、飛行場等。</p> <p>(ハ)砲臺、軍用倉庫、通信設備、工廠等。</p> <p>(ニ)陸軍建設物。</p> <p>(ホ)兵器又ハ軍用材料ノ貯藏所。</p> <p>(ヘ)敵ノ艦隊又ハ軍隊ノ用ニ供セラルベキ工場、及設備。</p> <p>(ト)民間工場、給集、港灣設備、通信設備、飛行場等ニシテ、敵ノ軍用ニ供セラルルコト明ナルモノ。</p>	<p>砲撃(本書第二七二頁以下参照)</p> <p>(空 砲 法 規 案(一九二三年))</p> <p>(一)防守非防守ノ區別ナク、破壊又ハ毀損ガ明瞭ナル軍事ノ利益ヲ交關者ニ與フル方ガキモノ(軍事目標)</p> <p>ヲ砲撃スルコトヲ得(空、二四)</p> <p>(二)砲撃ノ差支ナキモノノ例(空、二四(三))</p> <p>(イ)軍艦、軍艦。</p> <p>(ロ)軍事上ノ工作物。(例)同上</p> <p>(ハ)軍事建設物。(例)同上</p> <p>(ニ)兵器貯藏所。</p> <p>(ホ)兵器貯藏所又ハ明瞭ナル軍用品ノ製造ニ從事スル工場ニシテ、重要且公知ノ中核ヲ構成スルモノ。</p> <p>(ヘ)軍事上ノ目的ニ使用セラルル交通線又ハ運輸線(海、陸、空路共)。</p> <p>(ト)都市村落等ニ對スル無差別砲撃(空、二四(四))</p> <p>○無差別砲撃ハ、原則トシテ禁ゼラルルモノ、左ノ場合ニ限リ許サル。</p> <p>○陸上軍隊ノ作戦行動ノ直近地域ニ於テ、都市、町村等ニ兵力集中セラレ砲撃ニ依リ一般市民ヲ考慮スルモノ尙砲撃ヲ正當ナラシムルニ充分ナリト推定スベキ理由アル場合。</p>	<p>砲撃(本書第三三五頁以下参照)</p> <p>(海 牙 砲 撃 條 約(一九〇七年))</p> <p>防守シタル都市、村落、住宅、建物等(陸、二五)。</p>	<p>砲撃(本書第一〇五頁以下参照)</p> <p>(戰時海軍力ヲ以テスル砲撃ニ關スル條約(一九〇七年))</p> <p>(一)防守シタル港、都市、村落、住宅、建物等(海、一)</p> <p>○港前ニ、自動機雷水雷ヲ敷設シタル場合ハ、防守シタルモノト看做シ差支ナシ(條約ニハ反對規定アリ)</p> <p>(二)非防守都市等ノ内ニ在ルモノ、左ノ物件ハ砲撃差支ナシ(海、二)</p> <p>(イ)軍艦、軍用運送船、軍用給油船、其ノ他軍ノ用務ニ服スル特務船艇。</p> <p>(ロ)軍艦、軍用工場、飛行場等。</p> <p>(ハ)砲臺、軍用倉庫、通信設備、工廠等。</p> <p>(ニ)陸軍建設物。</p> <p>(ホ)兵器又ハ軍用材料ノ貯藏所。</p> <p>(ヘ)敵ノ艦隊又ハ軍隊ノ用ニ供セラルベキ工場、及設備。</p> <p>(ト)民間工場、給集、港灣設備、通信設備、飛行場等ニシテ、敵ノ軍用ニ供セラルルコト明ナルモノ。</p>
砲撃	<p>(一)砲撃(海、六)</p> <p>軍事上必要ニシテ得ザル場合ノ外、攻撃指揮官ハ砲撃開始前、其ノ旨官ニ通告スルヲ義務シ得ベキ一切ノ手段ヲ盡ス(絕對ノ條件ニ非ズ)。</p> <p>(二)非防守都市村落ノ内ニ砲撃目標ヲ設ケル場合</p> <p>(イ)通常ノ場合(海、二)</p> <p>○相當期間ノ豫報ヲ以テ、地方官憲ガ自ら破壊スベキコトヲ報告ス。</p> <p>○地方官憲、物件ヲ破壊セザルトキ、全然他ニ手取ナキトキハ砲撃破壊ス。</p> <p>(ロ)緊急ノ場合(海、三)</p> <p>○警告ヲ要セス。</p> <p>○成ルベク都市村落ニ來スベキ不使ヲ少クス。</p> <p>(三)故意ニ損害ヲ大ナラシメザルコト。</p> <p>○都市、村落ノ一般破壊ヲ目的トスルコトハ禁止セラレ。</p>	<p>(一)報告、必要トセス。</p> <p>(二)警告、必要トセス。</p> <p>(三)軍事目標破壊ヲ唯一ノ目的トスベキコト。</p> <p>(イ)平和人民ヲ威嚇シ、軍事ノ性質ヲ有セザル私有財産ヲ破壊、損傷シ又ハ非戦闘員ヲ損傷スルコトヲ目的トスル砲撃ハ禁止セラレ(空、二二)。</p> <p>(ロ)無差別砲撃禁止(空、二四(三))</p> <p>○陸上軍隊ノ作戦行動ノ直近地域ニ在ラザル都市町村等全部ヲ、砲撃目標トスルコトハ禁止セラレ。</p> <p>○軍事目標破壊ノ爲、平和人民ニ對シ無差別ノ砲撃ヲ爲スニ非ザレバ目的ヲ達シ難キ場合ニハ、砲撃ヲ差控フベキモノトス。</p>	<p>強襲(突撃)ノ場合ヲ除クノ外、砲撃開始前、其ノ旨官ニ通告スルヲ義務シ得ベキ一切ノ手段ヲ盡スヲ要ス。(陸、二六)</p>	<p>(一)非防守ノ都市、村落、住宅、建物等(陸、二五)</p> <p>○凡テノ攻撃、砲撃禁止。</p> <p>(二)左ノ物件ハ軍事上ノ目的ニ使用セラザル限り、攻撃ノ目標トスルコトヲ得ズ(陸、二七)</p> <p>○表示砲撃ヲ豫メ攻撃者ニ通告ス。</p> <p>○左記ハ海戦ノ場合ト同ジ。</p>
砲撃	<p>(一)砲撃(海、六)</p> <p>軍事上必要ニシテ得ザル場合ノ外、攻撃指揮官ハ砲撃開始前、其ノ旨官ニ通告スルヲ義務シ得ベキ一切ノ手段ヲ盡ス(絕對ノ條件ニ非ズ)。</p> <p>(二)非防守都市村落ノ内ニ砲撃目標ヲ設ケル場合</p> <p>(イ)通常ノ場合(海、二)</p> <p>○相當期間ノ豫報ヲ以テ、地方官憲ガ自ら破壊スベキコトヲ報告ス。</p> <p>○地方官憲、物件ヲ破壊セザルトキ、全然他ニ手取ナキトキハ砲撃破壊ス。</p> <p>(ロ)緊急ノ場合(海、三)</p> <p>○警告ヲ要セス。</p> <p>○成ルベク都市村落ニ來スベキ不使ヲ少クス。</p> <p>(三)故意ニ損害ヲ大ナラシメザルコト。</p> <p>○都市、村落ノ一般破壊ヲ目的トスルコトハ禁止セラレ。</p>	<p>(一)報告、必要トセス。</p> <p>(二)警告、必要トセス。</p> <p>(三)軍事目標破壊ヲ唯一ノ目的トスベキコト。</p> <p>(イ)平和人民ヲ威嚇シ、軍事ノ性質ヲ有セザル私有財産ヲ破壊、損傷シ又ハ非戦闘員ヲ損傷スルコトヲ目的トスル砲撃ハ禁止セラレ(空、二二)。</p> <p>(ロ)無差別砲撃禁止(空、二四(三))</p> <p>○陸上軍隊ノ作戦行動ノ直近地域ニ在ラザル都市町村等全部ヲ、砲撃目標トスルコトハ禁止セラレ。</p> <p>○軍事目標破壊ノ爲、平和人民ニ對シ無差別ノ砲撃ヲ爲スニ非ザレバ目的ヲ達シ難キ場合ニハ、砲撃ヲ差控フベキモノトス。</p>	<p>強襲(突撃)ノ場合ヲ除クノ外、砲撃開始前、其ノ旨官ニ通告スルヲ義務シ得ベキ一切ノ手段ヲ盡スヲ要ス。(陸、二六)</p>	<p>(一)非防守ノ都市、村落、住宅、建物等(陸、二五)</p> <p>○凡テノ攻撃、砲撃禁止。</p> <p>(二)左ノ物件ハ軍事上ノ目的ニ使用セラザル限り、攻撃ノ目標トスルコトヲ得ズ(陸、二七)</p> <p>○表示砲撃ヲ豫メ攻撃者ニ通告ス。</p> <p>○左記ハ海戦ノ場合ト同ジ。</p>

化學、燒夷、細菌戰一覽表

(本書第三〇五頁以下参照)

化學、燒夷、細菌戰	<p>(概説)</p> <p>○現存ノ化學戰等ニ關スル國際約束ハ、内容不備ナルノミナラズ、約約國ガ世界各國ヲ網羅スルニ至ラズ。隨テ將來ノ戰爭ニ於テ、十分人道的戰爭方法禁止ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ疑問ナリ。</p> <p>○規定ノ如何ニ拘ラズ、此ノ種戰爭方法ハ原則トシテ禁絶セラレベキモノナリ。</p> <p>(條約)</p> <p>(一)一八六八年聖彼得堡宣言(帝國不加入)</p> <p>(二)一八九九年海牙宣言</p> <p>(三)海牙陸戰條約第二十三條</p> <p>(四)對獨逸和約第七十一條第一項、第二項</p> <p>(五)一九二二年海牙水雷及毒瓦斯ニ關スル五國條約(不發効)第五條</p> <p>(六)一九二五年海牙毒瓦斯等使用禁止ニ關スル議定書(帝國未批准)</p> <p>(七)國際聯盟軍縮準備委員會作成條約案第三十九條</p> <p>(禁止セラルベキモノ)</p> <p>(一)有毒物質ノ使用禁止</p> <p>○有毒性、窒息性、催淚性、刺激性、腐蝕性物質。</p> <p>○形體ノ固體、液體、瓦斯體ノ何レタルトモ同ハズ、人體又ハ動物ノ組織ニ有害ナル一切ノ天然物體又ハ化合物體。</p> <p>○荷クモ敵ヲ殺傷スル目的ヲ以テ使用スル以上ハ、其ノ方法ノ如何ヲ問ハズ。</p> <p>(二)燒夷性物質ノ使用禁止</p> <p>○特ニ火災ヲ誘發スル目的ヲ有スル放射物。</p> <p>○火焰放射器ノ如キ、火焰ニ依リ人ヲ攻撃スル爲ニ設計セラレタル器械。</p> <p>(三)病原菌ノ使用禁止</p> <p>○敵ヲ害スル目的ヲ以テ、直接人體植物ニ接觸セシムル爲又ハ間接ニ接觸スル爲(大氣、水、食料等)汚染スルガ如キ。</p> <p>○病原菌生體、透過病原體又ハ汚染物質ノ散布傳播方法ノ使用。</p> <p>○特ニ航空機防禦ノ爲ニ作製セラレ、右目的ノ爲ニ使用セラレル燒夷用放射物。</p> <p>(禁止セラルベキモノノ例外)</p> <p>(一)有毒物質ニ對スルモノ</p> <p>○通常燒夷燒夷ヨリ生ズル有毒物質。</p> <p>○普通ノ使用方法ニ於テ有毒作用ヲ伴フ處ナキ毒藥。</p> <p>(二)燒夷性物質ニ對スルモノ</p> <p>○各種放射物中、不慮ニ依リ燒夷ノ結果ヲ生ズルモノ。</p> <p>○特ニ照明、發光ノ爲ニ造ラレタル火工物。</p> <p>○特ニ航空機防禦ノ爲ニ作製セラレ、右目的ノ爲ニ使用セラレル燒夷用放射物。</p> <p>(目的)</p> <p>○人、動物ニ限ラズ植物ニ對シテ行フモ禁止セラレベシ。</p> <p>(化學兵器等ノ使用方法)</p> <p>○但シ毒敵ノ企圖ヲ有セザル方法、例ヘバ兵舍消毒ノ目的ニ毒瓦斯ヲ用フルガ如キコトハ禁止セラレザルコト勿論ナリ。</p> <p>(禁止ノ程度)</p> <p>○無害戰ハ對手側ノ行動如何ニ拘ラズ絕對禁止。</p> <p>○化學、燒夷兵器ヲ相互的禁止トスベキヤ絕對的禁止トスベキヤハ定期ナシ。</p> <p>但シ絕對的禁止トスベシトノ意見強シ。</p> <p>(復仇トシテ化學、燒夷兵器ヲ使用スルコト)</p> <p>○對手國ガ禁止兵器ヲ用ヒタル際、同種ノ兵器ヲ以テ復仇シ得ベキヤ否ヤニ付テハ定期ナシ。</p> <p>○但シ復仇トシテ禁止兵器ヲ用フルコトハ不可ナリトノ意見強シ。</p> <p>(萬々一復仇ノ絕對必要アル場合ニハ、復仇トシテ用フル旨ヲ明示スルヲ可トス)。</p> <p>(事實ノ調査)</p> <p>○敵ノ化學兵器等使用ノ事實アルトキハ速ニ調査スルト共ニ、證據ヲ保存スルニ努ムルヲ要ス。</p> <p>○證人、證言等ヲモ取り置クヲ必要トス。</p> <p>○凡テ迅速ニスルヲ要ス。</p> <p>(制裁)</p> <p>○化學兵器等ノ使用者ハ國際法違反者トシテ處置ス。</p> <p>○國際聯合制裁ノ議モアレドモ實行困難ナリ。</p> <p>(化學戰準備禁止)</p> <p>○平時ノ準備ヲ禁止スベシトノ議アレドモ、實行困難ナリ。</p> <p>○少クモ防護手段ノ準備ハ許サザルヲ得ザルベシ。</p> <p>(注意事項)</p> <p>○煙幕使用ノ際ハ、感宣傳又ハ敵ニ復仇トシテノ化學兵器等ノ使用ノ口實ヲ與ヘザルコトニ注意スルヲ要ス。</p>
-----------	---

中立立法規一覽表

○中立ノ根本ハ、交戦國以外ノ國ハ戰爭ニ與ラズ、交戦國ノ双方ニ對シ嚴ニ公平不偏ノ態度ヲ持スルニ在リ。不完全中立、好意的中立ハ此ノ中立ニ非ズ。
○關係條約及條約案左ノ如シ。
一九〇七年 海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約。
一九二二年 陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ關スル條約。
一九二二年 空戰法規案。

事 項	海 戰	空 戰	陸 戰
交戦者ノ一般義務	○中立國ノ主權尊重。 ○中立國ニ於テ寬容ノ結果其ノ中立違反ヲ構成スルニ至ルベキ一切ノ行為ヲ、中立領土領水内ニ於テセザルコト(海中、一)。 ○捕獲檢査其ノ他一切ノ敵對行為ヲ行ハザルコト(海中、二)。 ○違反アリタルトキハ、中立國ハ解放ニ努ム。 ○違反交戦國ハ、中立國ノ請求ニ依リ解放(中立國領域ヲ去リタル場合)(海中、三)。 (海中、四)。	同上。 同(空、三九)。	同上。 (本書第三三三頁以下参照)
中立領土領水内ニ於ケル敵對行為禁止	○捕獲檢査其ノ他一切ノ敵對行為ヲ行ハザルコト(海中、二)。 ○違反アリタルトキハ、中立國ハ解放ニ努ム。 ○違反交戦國ハ、中立國ノ請求ニ依リ解放(中立國領域ヲ去リタル場合)(海中、三)。 (海中、四)。	同上。	同上(陸中、一)。
捕獲檢査所設置禁止	特ニ通信器械ヲ設置スルコト(海中五)。(其ノ他ハ陸戰ノ部参照)。	中立國管轄内ヨリノ偵察禁止(空、四七)。	(一)戰時無線通信ノ經營ハ成ルベク他ノ中立無線通信局ヲ妨害セザルコト。 (二)交戦國及中立國內ノ取締ハ隨意。 (三)交戦國方其ノ兵力ト通信スル爲メ設備ヲ、中立領域内ニ設置スルコトヲ禁止(陸中、三)。 (四)開戰前軍事專用トシテ中立國內ニ設ケタル設備ノ軍用禁止(陸中、三)。 (五)交戦者ノ爲ニスル中立國設備使用ノ自由(陸中、八)。 (六)中立領域内ニ於ケル、交戦國移動無線通信局ノ使用禁止。
作戦根據地設置禁止			
通信取締			
軍用材料ノ供給	(一)政府自身ノ供給禁止。 如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハズ、交戦國ニ對シ直接間接軍械、彈藥其ノ他一切ノ軍用材料ノ供給禁止(海中、六)。 (二)個人ノ供給自由。 中立國政府ハ、軍需品ノ輸出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セス(海中、七)。 (禁制品トシテ、海上輸送ノ途中捕獲セラルルコトアルベシ)。	航空機、其ノ部分品、供給(空、四四)。 同上。	(一)個人ノ軍用材料輸出ノ自由(陸中、六)。 (二)軍用材料ノ供給ニ付テハ海戰ノ場合ト同ジ(陸中、一八)。 (三)公債應募自由(陸中、八)。 ○例外。 ○中立國領域内ニ於ケル、戰時部隊編成禁止。 ○機務事務所開設禁止(陸中、四)。 ○個人ガ交戦國ノ勤務ニ服スル爲メ、出立スルハ自由(陸中、六)。
公債應募			
遠征艦船部隊組織禁止	(一)交戦國艦船ノ中立領水通過自由(海中、一〇)。 (捕獲檢査船モ同様)。 (二)入港制限禁止(海中、九)。 (三)一定制限ノ下ニ入港スルコトヲ得、制限禁止ハ公平ニ行フコト。 ○命令規則違反船舶ノ入港ヲ禁止スルコトヲ得。 (三)公許水先人ノ使用自由(海中、一一)。 (四)敵國軍艦ト軍械(到港前)……二十四時間 ○敵國商船ト軍械(前船先發)……二十四時間 (五)出立順序、開港(海中、一六)。	(一)交戦國軍用航空機中、中立國管轄内ニ入ルコトヲ得ズ(空、四六)。 ○例外。 軍械(航空機母機ヲ含ム)ニ搭載中ノ航空機(空、四八)。 (二)中立國ノ防止義務(空、四二)。 進入防止、若シ進入シタルトキハ、着陸着水ヲ強制ス。 開戰前ヨリ在リタルモノモ同様。 (三)道難交戦國軍用航空機救助(空、四三)。 中立國領域外ニテ救助セラレ、領域内ニ引入ラレタルモノハ拘留ス。	
交戦國艦船部隊ノ通過			
傷病者ノ取扱			
二十四時間規則	(一)中立國法令中別段ノ規定ナキトキハ、二十四時間以上碇泊スルコトヲ得ズ(海中、一二)。(敵リ長期間ヲ許スハ中立ノ精神ニ反ス)。 (二)開戰前ヨリ在泊スルモノハ、開戰時ヨリ二十四時間(海中、一二)。 (三)碇泊、海上ノ狀態ニ依リテハ、碇泊已ム迄、延期スルコトヲ得(海中、一四)。(燃料積入ノ場合ニモ延期シ得ル場合アリ)(一八)。 (四)敵國軍艦ト軍械(到港前)……二十四時間 ○敵國商船ト軍械(前船先發)……二十四時間		
碇泊軍艦數ノ制限	一箇所同時碇泊數ハ、三隻以下(海中、一五)。 (國ニ依リ增加スル例アリ)。		
破損修理	(一)航海ノ安全程度ニ止ムルコト。 (二)戰時能力ヲ増サザルコト。 (三)修理範圍ヲ定メ、速ニ行ハムルコト(海中、一七)。		
戰時能力増加禁止	(一)軍需品、武裝更新増加、艦員補充禁止(海中、一八)。 (二)糧食、燃料補充ハ許サレ。 ○平時糧食補充ハ許サレ。 ○最近本國港迄ノ燃料積入ハ許サレ(寬ニ過グ)。 ○燃料積入ノ全容量補充許サレ(寬ニ過グ)。 ○再度積込ハ三箇月後(海中、二〇)。		
糧食燃料補充制限	(一)場合(海中、二一)。 航海不能、海上險惡、燃料糧食ノ缺乏。 (二)條件(海中、二二)。 事故已ミタルトキハ直ニ出立。 出立セザルトキハ、中立國ハ捕獲船ヲ解放ス。 (三)正當事由ナクシテ引致セラレタル船舶(海中、二二)。 中立國解放ス。		
立港引致			
捕獲檢査ヲ待ツ迄ノ拘置	○條約ノ規定ハ、拘置スルヲ得ルコトト爲リ居ルモ、右ハ中立ノ觀念ニ合セズ(海中、二三)。 ○帝國トシテハ、拘置ヲ許サザルモノトシテ處置スベキナリ。 (一)中立國官憲ノ通告ニ拘ラズ不當碇泊ノ場合ニハ中立國ハ戰爭繼續中抑留ス。 (二)船員モ抑留セラル。 (三)宣言ノ上、士官ハ中立國內ニ於テ自由ヲ與フルコトヲ得(海中、二四)。 (四)。		
軍艦抑留			
義務違反禁止	中立國ハ中立違反防止ノ爲、施シ得ベキ監督手段ヲ採ルコト(海中、二五)。 中立國ガ中立維持上行使スル權能ハ交戦國ニ對シ非友誼ノ行為ニ非ズ(海中、二六)。		
中立國權利			
取締法令ノ通知	各國ハ交戦國軍艦取扱法令ヲ、適當ナル時期ニ相互ニ通知ス(海中、二七)。		
中立人			(一)戰爭ニ與ラザル國ノ國民ヲ中立人トス(陸中、一六)。 (二)中立ヲ主張シ得ザル場合(陸中、一七)。 ○交戦者ニ對シ、敵對行為ヲ爲ストキ。 ○交戦者ノ利益ト爲ルベキ行為ヲ爲ストキ(特ニ任意ニ一方交戦國ノ軍務ニ服スルトキ)。 (三)中立主張ヲ背セザル場合(陸中、一八)。 ○公債ニ應募シ商品ヲ供給スルコト。 ○警察又ハ民政ニ關スル勤務ニ服スルコト。

○郵便船186

ヨ

○船隻契約證書179

索 ○抑留(臨檢、搜索、捕獲、沒收ノ部参照)

○抑留ノ意義200

引 ○拿捕抑留ヲ爲スベキ場合及處置等134, 200, 255等

○中立國ニ於ケル軍艦抑留93, 255

ヨ

ラ

リ ○「ライブチヒ」號糧食補供252

○「ランス」砲撃114

リ

リ

○陸 戦321

○陸戦法規321, (附二十五)

○旅順開城26

○領 水67

○領水ノ範圍67, 68

○領水内ニ於ケル沿岸國ノ權利67

○領 空74

○糧食積入252

○臨檢、搜索、捕獲、沒收

○海戦ノ場合187

○臨檢ノ權利187, 102

○臨檢士官196

○臨檢ノ方法197

○搜索198

○搜索員198

○拿捕抑留100, 134, 139, 153, 157, 160

170, 177, 183, 200, 208等

○臨檢ニ對スル抵抗203

○空戦ノ場合283, 292

○掠奪禁止338

○旅行券14

索

ル

○「ルシタニア」號事件194

引

レ

○「レシテルヌイ」號事件66, 235

ル

○「レナ」號乗員逃亡257

レ

○連座罰禁止(占領地ニ於ケル)344

ロ

○連続航海主義149

ワ

○國際聯盟規約第十條乃至第十七條(附三十四)

ロ

○倫敦宣言43, (附十三)

○「ロンドン」海軍條約中海戦ニ關スル規定(附十二)

ワ

○「ワリアーグ」攻撃234, 94

○封鎖侵襲船舶ノ處分	139
○封鎖犯ノ性質	140
○平時封鎖	35, 141
○復仇	
○一般	39
○化學戰等ヲ復仇トシテ行ヒ得ルカ	516
○平時復仇	35
○船荷證券	180
○敷設水雷	115
○航空機ノ武装	265, 287
○武装解除	255
○武装商船	82
○「フライアト」船長死刑	50, 210
○俘虜	322
○一般	324
○帝國法令(附三十七、三十八、三十九)	
○逃走シタル俘虜	328
○「ブリッツ、アイテル、フリードリヒ」號	254, 257
○紛争ノ平和的處理條約	(附二十九、三十)
^	
○平和會議	43, (附三十三、三十四)
○白耳義占領	354
○便衣隊	324
ホ	
○防禦海面令	73, 120
○防守都市等	106
○砲撃(爆撃ノ部及害敵手段、攻圍ノ部参照)	
○海軍力ヲ以テスル都市村落等ノ砲撃	105, (附八)
○攻圍及砲撃	335
○北支日支停戰協定	34

○捕獲(臨檢、搜索、捕獲、沒收ノ部参照)	102
○捕獲權制限ニ關スル條約	(附九)
○捕獲士官	222, 227
○捕獲審檢所○捕獲審檢令	228, 229, (附十四)
○捕獲審檢(空襲ノ場合)	291
○捕獲シタル航空機ノ破壊	292
○中立領土領水内ニ於ケル捕獲審檢所設置禁止	237
○捕獲船ノ中立港引致	225
○捕獲審檢ヲ待ツ迄ノ拘置	226, 254
○海上捕獲ニ關スル沿革一覽表	102註
○保險契約證書	181
○保障占領	36
○「ボスフォラス」海峡	66, 82
○沒收(臨檢、搜索、捕獲、沒收ノ部参照)	292

マ

○「マソジユール」武装解除	247, 256
---------------	----------

ミ

○未開人ヲ戦争ニ参加セシムルコト	322
○水先案内	245
○民兵	323

ム

○無害航行	67, 75
○無警告攻撃	194, 212
○無線通信(通信ノ部参照)	
○無線電信ノ發信及受信簿	181

ユ

○郵便	183
○郵便信書	186

索引
ホ
マ
ミ
ム
ユ

ト

- 毒瓦斯使用禁止(化學戰ノ部参照)
- 都市攻撃.....105, 274

索引

- 取立金
 - 占領地ニ於ケル取立金.....246
 - 取立金不應ニ對スル砲撃禁止.....112
 - 取立金不應ニ對スル爆撃禁止.....375
- 「トレント」號事件.....165
- 「ドレスデン」號攻撃.....236

ナ

- 内海.....73
- 難船者ノ救助.....300

ニ

- 入港、通過
 - 交戦國艦船ノ中立國港灣領水入港通過.....243
 - 二十四時間規則.....246
 - 碇泊數ノ制限.....248
 - 破損修理.....248
 - 交戦國軍艦ノ取扱法令通知.....259
- 日露休戰條約.....33
- 二十四時間規則.....246
- 日進、春日讓受.....239

ネ

- 燃料補給.....250

ハ

- 背信行爲.....335
- 爆撃ニ關スル標準.....271

- 破壊.....210
 - 拿捕船舶及其ノ載貨ノ破壊.....311
 - 敵船.....214
 - 中立船.....292
- 捕獲シタル航空機ノ破壊.....155
 - 戦時禁制品ノ破壊
 - 海戦ノ場合.....294
 - 空戦ノ場合.....36, 90
 - 病院船.....66
- 「パナマ」運河.....43, (附四)
- 巴里宣言.....

ヒ

- 「ビーベン、ブリンク」事件.....163
- 非戦闘員.....58
- 人質.....84, (附十)
- 病院船.....86
- 病院船ノ破壊.....
- 標識
 - 虚偽ノ標識.....269, 287, 336
 - 軍艦.....77, 193, 205
 - 軍用航空機ノ特徴及要件(参照).....264
 - 赤十字.....89, 267, 333
 - 戦闘員.....265

フ

- 封鎖.....123, 288
 - 封鎖シ得ル場所.....124
 - 封鎖ノ有效要件.....127
 - 封鎖犯ノ成立要件.....132
 - 封鎖ノ實施.....134

2

)

7

索引
ホ
マ
ミ
ム
ユ

	○中立違反防止ノ義務	258
	○中立國權利ノ性質	259, 304
索 引 テ ツ	○中立國ノ權利義務	
	○海戦ノ場合	231
	○陸戦ノ場合	253
	○空戦ノ場合	299
	○中立國權利ノ性質	259, 304, 366
	○海戦ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約ノ適用	232
	○中立領土、領水	
	○敵對行爲禁止	
	○海戦ノ場合	234
	○陸戦ノ場合	353
	○交戦國軍艦ノ中立國領水内進入通過	243
	○交戦國軍用航空機ノ中立國管轄内進入禁止	297
	○軍隊、軍需品等ノ中立國領土通過禁止	353
	○作戦根據地設置禁止	238
	○中立國內ニ於テ留置スル交戦者及救護スル傷病者ノ取扱	363
○捕獲密檢所設置禁止	237	
○「チャイナ」事件	164	
○徴發		
○占領地ニ於ケル徴發	348	
○中立國航空機ノ徴發	279	
○徴發不應ニ對スル海軍力ニ依ル砲撃	111, 275	
○中立商船徴用	18	
○非常徴用權	18	
	ツ	
○追跡權		
○一般	137	
○封鎖ノ場合	137	

○通行券	14	
○通信		
○一般	167, 355	
○海底電線	121	
○無線通信	167, 355	
○戰時無線通信取締規案(附三十六)		索
○區域ヲ定メテ管制スル方法	168	
○洋中ニ於ケル管制	171	引
○敵國領土内ニ在ル無電電信海岸局	172	
○無線通信ニ關スル中立國ノ權義	173, 356	ツ
○交戦國移動無線通信局ノ使用禁止	174, 356	テ
	テ	
○偵察(航空機ニ依ル)	304	
○停船	192	
○敵ト交通スル帝國船舶	103	
○敵國財産	11, 100, 349	
○敵國人	11, 99	
○敵性	96	
○一方交戦國領土内ニ在ル敵國人	11	
○占領地内ノ敵國人	342	
○拿捕船舶内ノ敵國人	202	
○敵國船舶	96, 76, 202	
○開戦ノ際ノ敵國船舶	12	
○敵對行爲	54, 268, 335	
○敵對行爲ノ範圍	55, 268, 335	
○敵對行爲ヲ行ヒ得ル場所	63, 234, 297	
○空戦ノ場合(爆撃ノ部参照)	271	
○陸戦ノ場合(害敵手段攻圍、砲撃ノ部参照)	335	
○敵性	96, 99	
○敵船ノ處分	100, 102, 202	
○鐵道材料	365	

○戦時1
 ○戦争法規1, 39
 ○開戦1
 ○戦時規約23
 ○戦争類似ノ場合35
 ○戦争法規ノ適用39
 ○戦争法規違反49
 ○戦時重罪49
 ○帝國ノ遵守スベキ戦争法規41, 附録
 ○戦時復仇39
 ○戦時法規改正委員會263
 ○戦時禁制品144, 288
 ○種類145
 ○品目146
 ○輸送149
 ○輸送船舶及物件ノ處置153
 ○連続航海主義149
 ○戦時禁制品ノ引渡、破壊155
 ○戦數62
 ○潜水艦
 ○潜水艦ノ地位77, 244
 ○潜水艦ノ對商船行動ニ關スル條約78
 ○潜水艦乗員ノ取扱50
 ○宣戦5
 ○戦争拋棄條約3, (附三十一)
 ○戦闘員522
 ○船舶賣渡證書181
 ○中立國ニ於ケル船舶ノ機装、武装禁止242
 ○船舶ノ臨檢拿捕等187
 ○船舶ノ破壊310
 ○戦闘能力増加禁止、軍需品ノ補充制限250

○セントピーターズブルグ宣言307, (附十八)
 ○戦利品200 ○海軍戦利品取扱規程(附十五)
 ○占領341
 ○占領地ニ於ケル軍ノ權力341
 ○保障占領(平時)36

ソ

○搜索(臨檢、搜索、捕獲沒收ノ部照)198
 ○租借地36, 126
 ○租税、賦課金等(占領地ニ於ケル)344

タ

○「ダーダネルス」海峡66
 ○拿捕(臨檢、搜索、捕獲沒收ノ部参照)
 ○拿捕ノ意義200
 ○拿捕抑留ヲ爲スベキ場合及處置等100, 103, 134, 139, 153,
 157, 160, 170, 176, 177, 183, 200, 286
 ○拿捕免除101
 ○共同拿捕207
 ○再拿捕207
 ○拿捕船舶及其ノ載貨ノ破壊210
 ○拿捕船舶及其ノ載貨ノ使用219
 ○拿捕船舶送致ノ手續222
 ○拿捕特許私船77
 ○「ダムダム」彈使用禁止57, (附二十四)
 ○通航證明書290

チ

○中立231, 138, 353
 ○中立人361
 ○交戦者ノ一般義務233
 ○交戦國航空機ノ一般義務297

サ

○積貨目録180

○細菌戦312

○最後通牒5

○對 獨(附四十)

○財産ニ對スル軍ノ權力

○陸戦ノ場合349

○海戦ノ場合100

○催涙物質310

○作戦區域119, 124, 168

○「サロニカ」占領354

○三海里説68

○霰弾銃ノ使用58

シ

○自 衛9, 35

○紙上封鎖127

○自動觸發水雷115, (附七)

○自由船自由貨102 参考

○出港證書180

○準 備(化學戦等ノ準備禁止)319

○燒夷彈268, 311

○乗員(船舶、航空機)ノ取扱附表第三、第四

○乗客ノ取扱附表第三、第四

○乗客名簿179

○書 類

○航空機書類289

○船舶書類178

○書類ノ保全213, 217, 221

○商艦ヲ軍艦ニ變更スルコト79, (附六)

○使 用

○拿捕シタル敵船及其ノ載貨ノ使用219

○占領地内ノ土地物件使用349

○傷病者

○傷病者保護。「ジェネヴァ」條約84, 267, 329, (附十一及二十六)

○傷病者救護用航空機267

○中立國內ニ於テ救護スル傷病者ノ取扱304

○情 報

○情報探知60, 61, 342

○情報探知60

○情報ノ傳達(軍事の補助ノ部参照)158, 161

○即時使用ニ供スル軍事情報等(無線通信ノ部参照)17

○信 書

○外交信書183

○外交信書135, 138

ス

○水雷(自動觸發)115

○水雷艇ニ依ル臨檢187

○瑞茂號拿捕17

○「スエズ」運河66, 82

○「ストーン、ブロックード」(Stone blockade)134

セ

○制 裁49, 53

○戦争法規違反49

○化學戦等ニ對スル制裁318

○青嶋占領355

○戦時重罪49

○戦時叛逆50

○船籍移轉36, 264, 288

○赤十字條約(傷病者保護)84, 329

○戦 時1

索 引 シ ス セ

	○商船ヲ軍艦ニ變更スルコト	79
索引	○軍使	
	○軍使	359, 356
	○軍使船	132
	○軍事的補助	156, 172, 287
	○輕質ノ軍事的補助	157
	○重質ノ軍事的補助	160
	○群民(地方人民蜂起)	323
	○軍用材料	
	○供給禁止	
	○海戦ノ場合	239
○空戦ノ場合	301	
○陸戦ノ場合	360	

ケ

○輕氣球ヨリ爆裂物投下禁止宣告	(附十六)
○「ゲラリ」戦(Guerilla)	324
○健康證書	181

コ

○護衛	14
○攻圍(砲撃ノ部参照)	336
○封鎖トノ差異	123
○公海	119, 171
○航海日誌	179
○航空ノ自由	75
○航空機	
○軍用航空機ノ特徴及要件	263
○敵國及中立國航空機ニ對スル軍ノ權力	278
○敵國及中立國航空機ノ搭乗者ニ對スル軍ノ權力	281
○交戦國軍用航空機ノ臨檢搜索等ノ權利	283

○航空機書類	289
○捕獲シタル航空機ノ破壊	292
○交戦國航空機ノ一般義務	297
○交戦國軍用航空機ノ中立國管轄内進入禁止	297
○航空機其ノ部分品等ノ供給禁止	301
○攻撃ヲ爲シ得ベキ状態ニ在ル航空機等ノ出發禁止	302
○航空日誌	290
○公債應募	360
○高陞號事件	10, 166
○行動區域(封鎖艦隊ノ行動區域)	136
○荒廢	108
○廣南號事件	162
○交戦權ノ行使者(交戦者)	
○海戦ノ場合	76
○空戦ノ場合	266
○陸戦ノ場合	322
○交戦權ヲ行ヒ得ル場所(禁ゼラルル場所)	63, 254, 353
○交戦區域	119, 124, 168
○交戦團體	2
○降伏	24
○講和條約	19
○國際法ノ遵守	45
○國際法違反及之カ處罰	49
○國籍	96
○國籍證書(船舶)	179
○護送	
○中立國軍艦ニ依ル護送	174
○敵國軍艦ニ依ル護送	177
○「ホルモラン」	257
○「コレーツ」攻撃	234

オ

○押収122, 154, 170, 173, 349等

カ

索	○海員名簿179
引	○海 峽74, 118, 125
	○河 川126
オ	○海門號168
カ	○外交使節ノ待遇165
	○外交信書ノ尊重135
	○海底電線121, 352
	○害敵手段(敵對行爲ノ部参照)55, 268, 271, 335等
	○開 戦1—19,(附三十五)
	○開戦ノ際ニ於ケル敵國商船ノ取扱12,(附五)
	○海戦法規41.(附一、二、三)
	○「ガイヤー」號抑留249
	○火焰發射器311
	○化學戦、燒夷戦、細菌戦	
	○一般305
	○諸規則307.(附十九乃至二十三及四十一、四十二)
	○禁止セラルベキ物質310
	○禁止セラルベキモノノ例外312
	○目的物314
	○化學兵器等ノ使用方法314
	○禁止ノ程度315
	○事實調査318
	○制 裁318
	○準備禁止319
	Q「カムラン」灣寄港246
	○間 諜	
	○一 般61

○空戦ノ場合271

○艦船(入港通過ノ部参照)

 ○交戦國艦船ノ中立國港灣領水入港通過243

キ

	○機關日誌181
	○奇 計60
	○危險區域117
	○休 戦29
	○記念建造物ノ保護113, 274, 337
	○義勇兵團323
	○居留地164, 127, 255
	○緊急状態排除38
	○「キングアーサー」號事件128
	○禁制品(戦時禁制品ノ部参照)	

ク

	○空軍兵力561
	○空 戦44, 261
	○空戦法規ノ現状261
	○空戦法規案(附十七)
	○空戦ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務279
	○「クールゼダー」號事件187
	○軍ノ權力	
	○敵國及中立國航空機ニ對スル軍ノ權力278
	○敵國及中立國航空機ノ搭乗者ニ對スル軍ノ權力281
	○敵國領土ニ於ケル軍ノ權力341
	○軍艦135
	○軍艦ノ性質76
	○軍艦ノ特徴77
	○軍艦旗77, 205

索引

索引

(註) 羅馬數字ハ頁ヲ示ス。「附」ハ附録ヲ示ス。

索引

ア

- 「アッバム」號引致..... 254
- 「アラバマ」號事件..... 242
- 安導券..... 14

イ

- 移送(占領地住民)..... 243
- 委任統治地域ノ地位..... 65
- 入 海..... 73
- 「インドウストリー」號事件..... 161
- 飲料水汚染..... 315

ウ

- 運河(國際) 66, 126

エ

- 曳眼彈ノ使用..... 268
- 「エカテリノスラブ」號拿捕..... 10, 189
- 「エデイス、キヤヴェル」ノ處罰..... 53
- 衛生關係..... 84, 267, 329
- 沿岸海(領水参照)
- 烟幕(烟霧)..... 313
- 遠征部隊組織禁止
 - 船舶ノ武装禁止 242
 - 攻撃ヲ爲シ得ベキ状態ニ在ル航空機等ノ出發禁止..... 303
 - 戦闘部隊編成、徵募事務所開設禁止..... 358

索

引

昭和十二年五月二十七日印刷
昭和十二年五月三十日發行
昭和十四年九月三十日增刷
昭和十六年八月二十日增刷
昭和十七年五月二十五日增刷

海軍大臣官房

株式會社帝國地方行政學會取締役社長

印刷者

大谷

保

東京市京橋區銀座西七丁目一番地

印刷所

帝國法規出版株式會社印刷所

東京市牛込區西五軒町五十二番地